

年 齡	男		女		平均
	桃	東	桃	東	
六 歲	—	—	—	—	—
七 歲	—	—	—	—	—
八 歲	—	—	—	—	—
九 歲	—	—	—	—	—
十 歲	—	—	—	—	—
十一 歲	—	—	—	—	—
十二 歲	—	—	—	—	—
十三 歲	—	—	—	—	—
十四 歲	—	—	—	—	—
平均	—	—	—	—	—

(ハ)齒類別ニ於ケル齲齒百分率——齒類別ニ於ケル齲齒罹患率ハ検査セル兒童ノ年齢ニヨリ大ナル差アリ、之ガ爲ニ諸家ノ報告必ズシモ同一ナル結果ヲ得ズ、乳齒ニ就テ之ヲ觀ルニ

調査者	第一位		第二位		第三位		第四位		第五位		第六位		第七位		第八位		第九位		第十位	
	上中切	下第二白	上第一白	下第一白	上第二白	下第二白	上側切	下第一白	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切
川上	上中切	下第二白	上第一白	下第一白	上第二白	下第二白	上側切	下第一白	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切
松入	上中切	下第二白	上第一白	下第一白	上第二白	下第二白	上側切	下第一白	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切
井野	上中切	下第二白	上第一白	下第一白	上第二白	下第二白	上側切	下第一白	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切
松入	下第二白	上第一白	上中切	下第二白	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切
井野	下第二白	上第一白	上中切	下第二白	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切	上第一白	上側切

余川上ノ統計ニ於テハ男女共ニ上顎乳中切齒ヲ第一位トナシ、下顎第二乳白齒ヲ第二位トナセリ、入戸野・松井兩氏ノ統計ニテハ下顎第二白齒ヲ第一位トナシ、上顎中切齒ハ第四位ニアリタリ、而シテ最モ罹患率ノ小ナルハ下顎中切齒ナルハ、何レモ相一致スル所ナリトス、永久齒ニ就テハ出眼後未ダ短時日ナルト然カモ出眼期ニ著シキ遲速アルヲ以テ確實ナル

罹患率ヲ知り難キモ最モ早期ニ出眼スル第一大白齒ハ最高位ノ罹患率ヲ有スルハ諸家ノ相一致スル所ナリ。

調査者	上		下	
	中切側切	犬	中切	犬
川上	第七位	同上	第八位	同上
松入	第七位	同上	第七位	同上
井野	第七位	同上	第七位	同上
松入	第五位	第七位	第十位	第八位
井野	第五位	第七位	第十位	第八位
クロエザ	第八位	第七位	第七位	第九位

備考 余川上ノ統計ニテハ罹患率等シキハ同位ニ置キ、クロエザ氏ノ統計ニテハ第十及第十一位ハ下顎第三大白齒及上顎第三大白齒ヲ數ヘタルガ故ニ、茲ニハ之ヲ省略セリ。

右表ニヨレバ下顎第一大白齒ハ第二位上顎第一大白齒ハ第二位ニアリ、而シテ又乳齒ニ於ケル場合ト等シク下顎前齒ハ最モ罹患率ノ小ナルヲ示セリ。

(ニ)年齢別ニ於ケル第一大白齒ノ齲齒罹患率——上述セル如ク永久齒中第一大白齒ハ最モ齲齒罹患率ノ大ナルヲ示スモノナルガ、之ヲ年齢別ニテ其百分率ヲ觀察スルニ、下顎ハ上顎ノ二倍乃至三倍ノ罹患率ヲ示シ、兒童ハ十一歳乃至十二歳ニ達スレバ下顎ニ於テハ齒數ノ半ハ齲蝕ニ陥ルヲ明ニス、此事實ハ吾人ガ口腔疾患ノ豫防上輕視スベカラザル大問題ナリ。

(ホ)上下顎ノ齲蝕罹患率——諸家ノ報告スル所ニ從ヘバ上顎ハ下顎ヨリ一般ニ齲蝕罹患率大ナリ、其理由トシテ下顎小白齒及大白齒ハ上顎ノ同名齒ニ比シ罹患率稍々大ナルモ(即チ第一章 學校病)

上顎三ニ對シ下顎四ノ割合(前齒部ニ於テハ下顎ハ上顎ニ比シ著シク少數ニシテ上顎四ニ對シ下顎一ヲ示スノミナルガ故全體ニ於テハ又下顎ハ齶蝕罹患者ノ少數ヲ現ハスニ至ルモノナリト云フ。

余(川上)ノ統計ニ於テハ乳齒及永久齒ヲ通算セルモノニテ男兒ニアリテハ上顎ハ下顎ヨリ稍々多クノ齶蝕ヲ有セルモ、女兒ハ反テ上顎ヨリ下顎ニ多數ノ齶蝕ヲ有セリ、サレド永久齒ノミノ計算ニテハ下顎第一大臼齒ガ他ノ齒牙ニ比シ著シク多數ノ齶蝕罹患者ヲ示スガ爲メニ男女何レニアリテモ下顎ハ上顎ノ約倍數ノ罹患者ヲ現ハセルヲ見ル、入野、松井兩氏ノ報告ニテモ、永久齒ノミニテハ上顎ノ約倍數ノ罹患者ヲ現ハセルヲ見ル、此關係ヲ明ニスル爲ニ(1)リンデル、(2)ボルト、(3)ローゼ、(4)シェフ、等ガ示セル如ク、基準數ヲ千個トナシテ計算スルニ左ノ如シ。

調査者	上顎		下顎		合計
	男	女	男	女	
リデン	五二七	四七三	四六八	一〇〇〇	
ロゼ	五三二	四六八	三五三	一〇〇〇	
シエ	六四七	四九七	四九七	一〇〇〇	
川上(乳・永合算)	五〇三	四九七	五一八	一〇〇〇	
同(永久齒ノミ)	三八	六八二	七一五	一〇〇〇	
同(永久齒ノミ)	二八五	七一五	一〇〇〇	一〇〇〇	

- (1) Linder.
- (2) Port.
- (3) Röse.
- (4) Scheff.

(一)學年別ニ於ケル齶蝕統計—學年別ニ於テ齶蝕ノ狀況ヲ知ラン爲ニ次ノ五項ニ就キ統計ヲ作製セリ、(1)健全齒ヲ有スルモノ、(2)齶蝕一乃至二個ヲ有スルモノ、(3)齶蝕三乃至四個ヲ有スルモノ、(4)齶蝕五乃至六個ヲ有スルモノ、(5)齶蝕七個以上ヲ有スルモノニ對シテ夫々百分率ヲ現セリ、而シテ尋常一學年ヨリ高等二學年ニ至ルハ學級ヲ通ジ健全齒ヲ有スルモノ最モ多數ナルハ尋常科ニテハ第六學年(十九%)、高等科ニテハ第二學年(二十七%)ナリ、サレド齶蝕七個以上ト云フ甚ダ不良ナル齒牙狀態ヲ示スモノ、最多數ナルハ、全學級間ヲ通ジテ尋常一學年(四十%)、尋常二學年(三十六%)、二學級ナリ、一般ノ齒牙狀態ハ學年ノ進ムニ從ヒ乳齒交換行ハレ次第ニ良好ナル方向ニ傾クト雖、尋常三學年及四學年ノ交ニ於テハ健者ノ數ハ十乃至十一%ニ減ジ、齶蝕ハ全級兒童ニ瀰漫スルニ至ル。

(4)齶蝕ト學業成績トノ關係—齶蝕ト學業成績トノ關係ニ就キテハ諸家ノ研究少カラズ、一般ニ歐洲諸學者ノ報告ニテハ検査セル地方並ニ其學級ノ相異等ニヨリ一定セル決論ヲ與ヘ難ク、或地方ノ検査ニテハ齶蝕ヲ有スルモノノ學業成績一般ニ劣等ナルノ結果ヲ得タルニ、他ノ地方ノ検査ニテハ全ク反對ニ齶蝕ヲ有スルモノノ學業優等者多キノ結果ヲ示セリ、余ノ統計ニ於テハ昨年東京市學童ノ齒牙検査ニ於テハ乙成績者ハ齶蝕ヲ有スルモノノ男兒三十一%、女兒二十六%、甲成績者ハ齶蝕ヲ有スルモノノ男兒二十七%、女兒二十%ニシテ、概シテ甲成績者ニハ齶蝕ヲ有スルモノ少キヲ見タリキ。

此問題ニ就キテハ本邦ニ於テモ各地ノ學校醫諸氏ノ注意ヲ喚起シ、大正三年一月日本學校衛生誌上ニ兵庫縣學校醫芳賀祐之助氏ハ自家ノ調査成績ニ基キ、成績優良ナル者ニ齶蝕ヲ有

スルモノ多ク成績劣等ナルモノニ却ツテ齶齒少シトノ越智末一郎氏ノ意見ニ全ク一致セル結果ヲ得タリト述ベ、又同年三月同誌上ニ於テ再ビ幼年級兒童ハ齶齒患者ノ方成績一般ニ不良ニシテ漸次上級ニ進ムニ從ヒテ之ト反對ノ傾向ヲ示ステフ一派ノ議論ニ對シテ實際調査ノ結果ニヨレバ全ク反對ニシテ齶齒患者ノ方却テ成績一般ニ佳良ナリ、然シ是レ或ハ調査セル兒童ガ何レモ齶齒痛ニ苦シマザリシニヨルナランカ云々ト述ベタリキ、而シテ本調査ノ成績ハ次ノ加シ。

男	甲 成績者百七十六人中	齶齒ヲ有スルモノ	百五十六人(八十九%)
兒	乙 成績者四百四十九人中	同	三百八十九人(八十七%)
丙	成績者八十四人中	同	六十七人(八十%)
女	甲 成績者百九十八人中	同	百七十二人(九十一%)
兒	乙 成績者四百九十七人中	同	四百二十六人(八十六%)
丙	成績者八十二人中	同	六十九人(八十四%)

更ニ齶齒七個以上ヲ有スルモノ即チ著明ニ齶齒ニ罹レル兒童ニ就テ此關係ヲ觀察スルニ

男	甲 成績者百七十六人中	齶齒七個以上ヲ有スルモノ	五十三人(三十%)
兒	乙 成績者四百四十九人中	同	九十八人(二十二%)
丙	成績者八十四人中	同	二十二(二十六%)

女	甲 成績者百九十八人中	同	四十八人(二十一%)
兒	乙 成績者四百九十七人中	同	百九人(二十二%)
丙	成績者八十二人中	同	二十三人(二十八%)

(5) 齶齒ト體格トノ關係—齶齒ト體格トノ關係ニ就キテハ次ノ如シ。

男	強ナルモノ百九十五人中	齶齒ヲ有スルモノ	百五十一人(七十七%)
兒	中ナルモノ四百九十七人中	同	四百三十四人(八十八%)
弱ナルモノ	十七人中	同	十五人(八十八%)
女	強ナルモノ百五十九人中	同	百三十一人(八十二%)
兒	中ナルモノ五百九十三人中	同	五百十八人(八十七%)
弱ナルモノ	十七人中	同	十七人(百%)

更ニ齶齒七個以上ヲ有スルモノニ就テ之ヲ見ルニ男兒ニ於テハ強(二十四%)、中(二十三%)、弱(五十九%)、女兒ニアリテハ強(十六%)、中(二十四%)、弱(三十五%)ヲ示シ、又一個ノ齶齒ヲモ有セザル健全者ニアリテハ全ク反對ニ強者ノ數甚ダ多シ、即チ男兒強(二十三%)、中(十三%)、弱(十三%)、女兒強(十八%)、中(十三%)、弱(八%)一人モナシ、由是觀之ニ齶齒ヲ有スルモノニハ強者少ク、弱者ニハ一般ニ齶齒ヲ有スルヲ明ニス、茲ニ於テ余川上ハ芳賀氏ガ齶齒ハ體格薄弱者ニ少クシテ却テ強壯者ニ多ク體格ノ強弱トハ何等ノ關係ナキモノ、如シトノ意見ニハ全ク賛スルコトヲ得ズ。

(6) 淋巴腺肥大ノ狀況—齶齒ガ原因トナリテ顎下並ニ顎下淋巴腺肥大ヲ招來スルハ吾人ノ日常遭遇スル所ニシテ、調査ノ結果淋巴腺ノ健全ナルモノハ男兒七百十人中百九十五人(二

十七%、女兒七百十人中二百十三人三十四%ノミナリキ、

(7) 結論—(一)永久齒發生順序ハ第一大臼齒・中切齒・側切齒・犬齒・第一小白齒・第二小白齒・第二大臼齒ニシテ、下顎齒ハ小白齒ヲ除クノ外ハ一般ニ上顎齒ヨリ早ク發生シ、又女兒ハ男兒ヨリ齒牙發生早期ナリ。

(二)乳齒吸收不全ハ男兒ハ女兒ヨリ多數ナリ、上下顎ノ比較ニテハ上顎ハ下顎ヨリ多ク、最も多數ノ吸收不全ヲ有スルハ第二乳臼齒及第一乳臼齒ナリ、之ニ次グハ犬齒及中切齒ナリ、最も少數ナルハ下顎前齒ニアリ、此關係ハ大略乳齒齶蝕罹患率ニ比例ス。

(三)齶齒ヲ有スルモノ兒童ノ八十六%ヲ占メタリ、男女兩性間ノ齶蝕罹患率ハ略同數ナリ、而シテ齶齒ノ最も多キハ八歳ノ頃ナリトス。

(四)齶齒ヲ有セザル健全ナル兒童ノ最も多數ナルハ十二歳ナリ。

(五)齶蝕罹患率ノ最も大ナルハ乳齒ニテハ上顎乳中切齒永久齒ニテハ下顎第一大臼齒ナリ、罹患率ノ最小ナルハ乳齒及永久齒共ニ下顎中切齒ナリトス。

(六)上下顎ニ於ケル齶蝕罹患率ハ乳齒及永久齒ヲ通算セバ上顎ハ下顎ヨリ遙ニ大ナリ、然シ學齡兒童ニ於テハ永久齒ノミナレバ全ク反對ニ下顎ハ上顎ニ優ル、是レ下顎第一大臼齒ガ特ニ著明ノ齶蝕罹患率ヲ有スルガ爲ナリトス。

(七)學年別ニ於テ齒牙ノ最も不良ナルハ尋常一學年ニシテ、健者ノ多キハ尋常六學年ナリ。

(八)齶齒ハ小學兒童現在ノ學業成績ニハ直接的關係ナキガ如シ。

(九)齶齒ト兒童ノ體格トノ關係ニ於テ強者ハ一般ニ齶齒少ク、弱者ニハ多數ノ齶齒ヲ有セリ。

(十)顎下淋・巴腺腫脹ヲ認メザルモノ僅ニ男兒ニアリテハ二十七%、女兒ニアリテハ三十四%ナリキ。

次に宮原學士は永峯氏と共に東京市内萬年小學校(特種小學校)に就きて齶齒の調査を行へり、氏等の報告中より左の調査要領を茲に掲ぐ。

齶齒トハ軟化(脱灰作用)ニ因スル齒牙硬組織ノ缺損ナレバ、針頭大イ黒點ヨリ齒牙全部ノ破壊ニ至ルマデヲ云フ、サレバ一言ニシテ齶齒ト稱スルモ、此程度ニヨリ罹病者ニ及ボス影響又ハ治療ノ様式等ニ大差アルヤ論ナシ、是ヲ以テ病原・結果・治療ノ方針ヲ究メント欲セバ、勢ヒ此程度ヲ看過スベカラザルナリ、故ニ吾人ハ次ノ程度ノ分類ヲ以テ觀察セリ。

齶齒程度

- (一)弱度 珥瑯質ノミノ齶齒
- (二)中度 齶齒ノ象牙質ニ達スルモノ
- (三)強度 齒髓腔ニ達スルモノ(齒髓露出モ之ニ屬ス)
- (四)殘根 齒冠ノ全ク崩壞シ齒根ノミ殘留スルモノ
- (五)抜去 齶蝕故ニ抜去セシモノ

同部位 加之各齶齒ニ於ケル齶蝕ノ部位又ハ基性部ハ病原論ニ少カラザル論據ヲ與ヘ、同時ニ又治療ノ方針・治療ノ難易等ニ關係アリ、サレバ是レ又大ニ顧慮スベキノ價値アリト信ズ、各齒牙ノ種類ニ就テハ常ニ罹病頻數度ノ調査セラルレドモ、前述ノ如ク各齒牙ノ何レノ面ニ部位スルカニ關シテハ數字的ニ示サレズ、是レ恐ラク其調査ノ繁雜ナルニ因ルナラン歟。

宮原學士の齒牙検査の成績によれば、日本人兒童中ニ於テハ萬年小學校兒童ハ最も健康ナル齒牙ヲ有スルモノニ屬ス、即ち齲齒あるもの、百分率は八六・八にして齲齒數の百分率は一六・二九なり、又平均一人の有する齲齒數は男女平均四本にして、之を年齢別にすれば左の如し。

年 齡	男	女
七 齡	五・八五 _本	八・二九 _本
八 齡	四・六七	四・五五
九 齡	四・七四	四・二七
十 齡	四・一八	三・四八
十一 齡	四・四二	三・七八
十二 齡	二・六七	三・〇〇
十三齡ヨリ十五齡	二・三六	三・〇一
平 均	三・八四	二・一六

次に下顎第一大臼齒最も齲蝕にかゝり易く、犬齒が最も健なり、而して總検査人員八百名中治療を施せるもの僅に五人、ゴム充填四個、アスルガム充填齒一個、其の他は人工を加ふることなく放置せるものなりき、又至急治療せざる可からざる齲齒は五〇六にして、其の百分率二・五五なり、更に氏等は本検査の結果左の結論をなせり。

一、萬年小學校生徒ノ齒牙ハ他ノ中流以上ノ家庭ノ子弟ヲ收容スル學校ノ生徒ノ齒牙ヨリ、概

シテ良好ナリ。

二、然レドモ上級生ニハ齲齒ノ極齒牙ノ缺如スルモノ、齒垢ノ著シク附著スルモノ等ヲ見ルコト漸次多キガ如シ、之ヲ以テ細民ノ成人ノ齒牙ハ案外不良ナラント思惟ス、是レ治療ヲナシ得ザルノ結果ニシテ、識者ノ一顧ヲ煩ハスヘキ問題ナラン。

三、此齒牙ノ健全ナル主因ハ、齒牙自淨作用ノ極度ニ行ハル、ニ因ルナラン、何トナレバ大學齒科外來ニ於テ、予輩ガ數年ノ間ニ稀ニ發見セシ慢性、又ハ自然治療セシ齲齒ハ、此處ニテハ比較的容易ニ發見ス、猶硬化ノ半途ニアルモノヲ見ル、此ノ慢性齲齒ハ永久齲蝕齒七百九十五本中三十八本ニシテ、内犬齒ニアリシ一本ヲ除クトキハ、他ハ皆第一大臼齒ヲ患セルモノナリ、又多クハ口腔清潔ニシテ、恰モ齒刷牙使用後ノ如キ状態ナリ、之ニ毎朝齒磨ヲ使用スルカヲ問フニ殆ド凡テ「否」ト答フ。

四、又齲蝕瘍ヲ作リシモノニ例アリ、他ハ齲齒壞疽ト雖モ無痛經過シテ殘根トナリ、自然ニ體外ニ除去サル、第三度齲蝕ヲ有スルモノニ痛ムカト問フ、是又否定ス、齲齒壞疽又ハ殘根ヲ有スルモノニ痛ミシコトアリヤト問フ、少數ノモノハ有リシト答フレドモ、多クハ無シト、斯如無痛ノ多キハ治療例ノ少キ所以ナリ、但シ何ヲ以テ疼痛ヲ感ゼザルカ、未タ醫學的證明ノアラザル故爰ニ明答スルヲ得ズ、吾人ハ唯事實ヲ敘スルノミ。

五、本校生徒ニ齲蝕治療ヲ施サントセバ、先ヅ第一ニ永久齒ニ著手スヘシ、今無痛ナリト雖モ將來ノ咀嚼機能ヲ全カラシメンガ爲メナリ、乳齒ハ例外ヲ除キ多クハ治療スルニ及バズ。

尙ほ、生活程度により齲蝕頻數度に大差あるを以て、今迄調査されし數千人に就きて

の統計にては甚だ不充分なり又學校齒科クリニック設立の目的には、換言せば齒牙治療の經費問題の資料としては、程度を考へずして漠然齲齒として調査せし統計のみにては不充分たるを免かれずと附言せり。

次に著者が文部省年報を基礎として材料を取經め、本邦小學兒童の齲齒調査報告となし、之を日本衛生學會に於て發表せし所のものは、左の如し。

本邦小學兒童齲齒調査報告

明治三十三年三月發布文部省令學生々徒及幼兒身體検査規則第五條第十項ニハ、齒牙ハ齲齒ノ有無ヲ検査スベシト規定セリ、蓋シ本項ハ我國ニ於ケル學校生徒ノ齒牙衛生ニ關スル唯一ノ規則ニシテ、爾來十有二年間吾人ハ學校生徒ノ齒牙ニ關シテ僅カニ窺ヒ知ルヲ得ベキ唯一ノ材料トシテ本省令ニヨリテ検査セラレ、本省令ニヨリテ集メラレタル各學校ノ報告書ヲ重視シ來レリ、然ルニ本年二月ニ至リテ右第十項ハ、齒牙ハ齲齒ニ就キ検査スベシト改正セラレタリ、彼處ニ齲齒ノ有無ト云ヒ此處ニ就キテト稱ス、吾人ハ其ノ間ニ自ラ相異ナレル意味アルヲ感ゼズンバアラズ、概言セバ甚ダ狹義ノ齒牙ノ検査ガ俄カニ其ノ検査領域ヲ擴張シタルヲ覺ユルナリ、要ハ齒牙衛生ノ重ズベクシテ、學校生活ハ人ノ將來ヲ限ルベキ最モ留意細心スベキ時期タルヲ注意セシノミ、殊ニ本項ノ改正ト共ニ各學校ハ其ノ身體検査成績ヲ各生徒ノ父兄ニ通信スルノ義務ヲ附セラレ且ツ家庭ニ通信スル場合ニハ從前齲齒ニ關シ唯其ノ有無ヲ報ゼシテ、上下顎ニ分チテ齲齒數ヲ計上スベク義務附ケラレタリ、斯ノ如クニシテ齒牙ニ關スル注意ハ頓ニ喚起セラレヌ、予(古瀬)ハ此時ニ當リテ舊規定時代ノ材料ヨリ五ヶ年ノ

成績ヲ綜合シ、吾人が窺ヒ知り得ベキ僅少ノ事實ヲ公ニスルノ徒事ナラザルヲ信ズ、但シ本報告中ノ齲齒患者ハ其ノ乳齒ナルト成齒タルトヲ論ゼス、苟クモ齲齒アラバ之ヲ齲齒患者トシテ計上シタルモノトス、尙ホ本成績ト齒科専門家ニヨル罹患者率トヲ對比セヨ。

(甲) 齲齒患者ト地方的關係

- 一、本邦小學校兒ノ齲齒アルモノハ男兒ハ約四五%ニシテ女子ハ約四九%ナリ
- 二、比較的齲齒患者ノ多キ地方ハ東京府京都府大阪府神奈川縣兵庫縣愛知縣岡山縣及沖繩縣ナリ
- 三、齲齒患者ノ少ナキ地方ハ山形縣秋田縣宮城縣廣島縣山口縣和歌山縣佐賀縣熊本縣宮崎縣ナリ
- 四、齲齒患者ノ著シク多キ地方ハ東京府及ビ神奈川縣ナリ
- 五、齲齒患者ノ著シク少ナキ地方ハ宮城縣及ビ秋田縣ナリ
- 六、男女ヲ比較スルニ各地女子ハ男子ヨリモ齲齒患者多シ愛媛ハ累年平均上男兒ハ女子ヨリ齲齒患者多キ成績ヲ示セリ
- 七、累年ノ成績ヲ比較シテ四十年度ニ於ケル患者數ノ増加アルモ全體ヨリ見テ齲齒患者ハ稍々減少スル傾向ヲ認ム

(乙) 年齢ト齲齒關係

- 一、女子ハ總テノ年齢ヲ通ジテ男子ヨリ齲齒患者多シ
- 二、七年ヨリ十六年ニ至ル間ニ於ケル齲齒患者ノ最高ニ達スルハ八歳ニ於テナリ

三、八歳ヨリ十一歳ニ至ル間ハ緩徐ニ齲齒患者ヲ減少シ其ノ減少スル程度ハ男女間ニ大差ナシ

四十一歳以後ノ年齢ニ於ケル齲齒患者減少度合ハ男子ハ女子ニ比シ急速ナリ

(丙) 都會ト齲齒關係

- 一、都會ニ於ケル小學男兒ノ齲齒アルモノハ約五六%ニシテ女子ハ約六〇%アリ
- 二、都會ノ齲齒患者比例ハ之ヲ全國通計ノ同比例ヨリ大ナリ
- 三、都會兒童ノ七歳ヨリ十六歳ニ至ル各年齢ニ於ケル齲齒患者比例ハ男女共ニ全國ノ同一比例ヨリモ皆大ナリ、但シ都會ノ女子十六歳ニ於テ反對ノ成績ヲ示セルハ其ノ検査人員ノ過少ナリシ點ヨリ除外例トナスヲ適當トセン
- 四、各都會ニ於ケル齲齒患者ノ男女ヲ比較スルニ新潟市岡山市及ビ福岡市ヲ除ケバ各市共女子ハ男兒ヨリ齲齒患者多シ
- 五、都會ガ位置スル各府縣ノ齲齒患者ヲ其ノ各都會ノ齲齒患者ト比スルニ男子ニアリテハ横濱、京都、富山、和歌山ノ四市、女子ニアリテハ横濱、京都、富山ノ三市ヲ除ケバ都會ハ常ニ其ノ府縣全體ノ比例ヨリ高シ
- 六、全體ヨリ見テ都會ノ兒童ニハ齲齒患者多ク郡部ニハ其ノ少ナキヲ推ス

小學兒童齲齒患者表 (五ヶ年累計)

道府縣別	男			女		
	検査人員	齲齒アル者	百分比	検査人員	齲齒アル者	百分比
北海道	六九、二四一	二六、〇七一	三七・六五	四七、六四六	一八、三六九	三八・五五
東北	一一四、二一一	八〇、七六九	七〇・七二	一〇七、四〇六	七七、八一二	七二・四五
東京	九七、九五二	五七、五一六	五八・七二	八四、四三九	五一、五七五	六一・〇八
大坂	一一一、二七九	六七、八一三	五九・九一	九三、三四一	五五、六五〇	五九・六二
神奈川	七四、六五二	四九、三七四	六六・四一	六一、一六七	四二、三七一	六七・二七
兵庫	一四三、九二〇	七三、九四七	五二・三三	一一〇、八六七	六六、六一七	五六・一一
長崎	八六、四七六	三六、二九四	四一・九八	六三、〇四五	二九、八〇二	四七・二七
新潟	九九、九四五	四九、一六四	四九・一九	七七、六六〇	四一、五二二	五三・四七
埼玉	四八、四二三	二二、七一五	四六・九一	三八、六五五	二〇、三七〇	五二・七〇
群馬	六五、九一四	二六、六九四	四〇・五〇	五四、九九五	二三、六六二	四三・〇三
千葉	四七、〇三〇	二〇、九九五	四四・六四	三七、九三〇	一八、五六六	四八・九五
茨城	四二、八三三	二〇、一三一	四七・〇〇	三四、八三一	一六、九五三	四八・六七
栃木	六二、九〇七	二六、七八九	四二・五九	五一、一七六	二三、四四八	四五・八二
奈良	五二、九九二	二二、九一一	四三・二三	四二、八五〇	一八、七九二	四三・八六

總計	神鹿宮熊佐大福高愛香德和山廣岡	兒	山
冊	龜島崎本貫分岡知緩川島山口島山		
三、二六七、八六二	三四、五〇二	八六、三一七	六三、八九一
一、四七六、三七〇	一八、九四九	三一、八七九	三三、八五七
四五、一八	五四、九二	三六、九三	五二、九九
一、五三八、四五二	二四、五一五	六七、八二九	五一、七九五
一、二三六、三三八	一四、七八四	二八、五三六	二九、一〇一
四八、七〇	六〇、三一	四〇、〇七	五四、二七

島	島	宮	石	福	秋	山	青	岩	福	宮	長	岐	滋	山	靜	愛	三
根	取	山	川	井	田	形	森	手	島	城	野	早	賀	梨	岡	知	重
四九、二三〇	二二、一六八	六五、四一九	八〇、一三一	四九、三二一	四五、六一五	四七、四二〇	七五、六八三	四二、六九五	五五、三五二	六一、一七三	一一、八七一	六九、六七五	七〇、〇九八	四八、二六〇	一〇〇、五三一	一〇三、八五七	九一、二五五
二一、七二〇	九、七八七	三一、七八三	三七、九四六	二二、四三六	一三、四四三	一七、七二一	一九、九二六	一七、四一九	二一、九八四	一七、七二九	五一、九六二	二五、四一八	二七、五七七	二二、三二二	四六、五四七	六〇、〇〇三	三八、四六〇
四四、一二	四二、二四	四八、五八	四七、三八	四四、四九	二九、四七	三七、三七	四三、六二	四〇、八〇	三九、七二	二八、九八	四四、四六	三六、四八	三九、三四	四六、二五	四六、三〇	五、七七七	四七、三三
三七、二六二	一八、四二六	五〇、〇六六	五六、六四四	三八、六四一	三一、三二五	三六、七一二	二八、六三五	三一、六三五	四一、二三八	四七、七一六	八七、六六一	五二、六一六	五四、四九四	三三、八二四	七七、五四六	八〇、五〇一	六三、〇七五
一七、三七八	八八、七一五	二五、一五六	二八、一六九	一八、六三五	一〇、六七六	一三、八〇九	一三、六八七	一四、〇七二	一八、七八五	一四、七〇一	四二、三四五	二一、一四二	二二、六三五	一六、七六一	三九、八三三	四九、五〇四	三二、六七四
四六、六四	四七、三〇	五〇、二三	四九、七三	四八、二三	三四、〇八	四七、六二	四七、八〇	四四、四八	四五、五五	三〇、八一	四八、〇一	四〇、一八	四一、五四	四九、五五	五一、三七	六一、五〇	五一、八〇

人口五萬以上ノ都會ニ於

性別	都會名	七 歲		八 歲		九 歲		十 歲		十一 歲		
		検査人員	齲齒ア ルモノ	検査人員	齲齒ア ルモノ	検査人員	齲齒ア ルモノ	検査人員	齲齒ア ルモノ	検査人員	齲齒ア ルモノ	
男	東 京	546	373	608	492	606	468	632	517	598	453	
	横 濱	272	203	340	260	240	168	266	176	307	177	
	新 潟	43	34	43	34	44	30	56	36	46	25	
	京 都	318	79	380	205	335	166	256	126	84	36	
	大 阪	1,222	922	1,373	903	1,262	856	1,150	706	934	462	
	神 戸	327	265	337	158	321	229	328	224	284	175	
	金 澤	27	23	41	37	39	31	35	28	57	38	
	富 山	503	270	513	268	586	265	393	149	346	133	
	和 歌 山	28	14	36	19	39	9	31	11	42	14	
	岡 山	218	186	249	193	316	163	233	148	309	170	
	廣 島	776	478	770	410	646	346	667	257	763	213	
	長 崎	425	289	486	352	446	291	396	236	413	226	
	福 岡	438	312	348	261	440	278	381	219	352	192	
	熊 本	266	193	328	244	352	214	566	239	387	104	
	鹿 兒 島	338	248	371	270	379	275	359	237	367	192	
	總 計		5,747	3,999	6,223	4,106	5,951	3,792	5,749	3,307	5,289	2,610
	百 分 比 例			69.58		65.98		63.72		37.52		49.57
女	東 京	520	452	583	504	624	525	602	491	580	427	
	横 濱	208	138	276	196	226	165	238	171	267	151	
	新 潟	34	28	34	28	45	20	47	25	84	15	
	京 都	278	129	279	122	276	174	246	126	102	45	
	大 阪	310	691	1,165	877	970	630	904	582	452	221	
	神 戸	503	211	319	236	311	225	300	189	176	75	
	金 澤	26	26	26	25	32	21	29	23	41	30	
	富 山	468	287	432	222	473	236	452	205	256	131	
	和 歌 山	26	13	33	8	6	11	18	10	27	11	
	岡 山	228	183	212	161	329	155	184	104	127	98	
	廣 島	661	417	679	387	625	310	558	232	475	188	
	長 崎	411	312	389	287	408	294	408	272	365	191	
	福 岡	309	240	285	165	295	160	229	127	273	148	
	熊 本	315	231	268	175	224	114	384	175	233	97	
	鹿 兒 島	261	206	240	178	314	233	211	136	248	150	
	總 計		4,970	3,589	5,220	3,571	5,078	3,336	4,810	2,868	3,746	1,976
	百 分 比 例			72.21		63.41		65.42		59.63		52.73

ケル小學校兒童齲齒患者表

十二 歲	十三 歲	十四 歲	十五 歲	十六 歲	總 計		百 分 比 例					
					検査人員	齲齒ア ルモノ						
489	337	305	196	132	77	29	9	3	1	3,948	3,023	76.57
325	189	269	152	147	96					2,166	1,394	64.36
33	19	26	12	13	7					304	197	64.80
44	18	4	1	1						1,422	631	44.38
692	335	474	190	227	74	77	26	8	2	7,419	4,489	60.83
243	141	219	118	112	53	31	14	6	2	2,206	1,379	62.51
48	25	27	12	11	6	5	2	2		293	201	68.60
300	98	240	64	171	41	81	19	8		3,142	1,307	33.00
32	8	18	5	16	1	6				248	81	32.66
310	149	267	100	146	51	33	8	4	1	1,985	1,169	58.89
723	205	405	76	280	55	80	12	16	10	5,126	2,062	40.23
436	173	345	104	238	83	79	19	21	6	3,285	1,779	54.16
311	160	306	103	172	46	40	11	8		2,796	1,582	56.58
298	57	146	25	45	2	8		2		2,398	1,078	44.95
351	156	314	150	251	109	93	34	38	9	2,861	1,680	58.72
4,635	2,071	3,365	1,308	1,962	674	562	154	116	31	39,599	22,052	55.69
	44.68		33.87		34.35		27.40		26.72		55.69	
499	329	329	208	171	99	43	28	2	1	3,959	3,064	77.39
250	150	173	100	92	54					1,730	1,151	66.53
15	8	9	4	4	2	2				224	130	58.04
31	13	5		3	2					1,220	609	49.92
213	94	102	56	49	22	16	7			4,787	3,180	66.43
122	62	58	23	61	31	9	6	3	1	1,662	1,039	63.72
22	10	17	11	21	9	5	2	2	1	221	158	71.49
214	42	138	49	84	16	21	8			2,538	1,197	47.16
26	11	24	8	11		8	2			199	73	36.38
221	76	175	55	89	33	15	5	2		1,572	875	55.49
332	98	162	39	111	21	25	7	4		3,632	1,698	46.75
295	134	60	19	130	53	27	4	8	2	2,501	1,568	62.70
190	87	131	31	96	36	32	4	16		1,856	993	53.77
110	33	151	36	126	14	34	5	2		1,347	877	64.80
252	134	204	85	145	66	64	26	18	12	1,957	1,229	62.80
2,792	1,282	1,735	730	1,193	458	301	104	57	17	29,905	17,566	59.74
	45.92		42.00		38.81		34.55		29.82		59.74	

第二章 身體發育

三島博士は其の著日本健體小兒の發育論に於て、分娩より滿十五年に至る男女兒一萬七千七十六名の精密なる調査成績を擧げて、本邦小兒の發育を論せられたり、而して其の摘要左の如し。

- (1) 生齒期—本邦小兒の第一の生齒期は、男女平均生後七個月を以て切齒を發生す、而して最も早きは男に於ては生後五個月、女に於ては三個月にして、最も遅きものは男女共に生後十四個月なり、猶ほ最初の切齒は下顎に發生するもの多し。
- (2) 行歩期—第一の行歩期は男女共に生後十三個月目にして、最も早きは男は生後七個月、女は八個月なり、其の最も遅きは男は廿六個月にして、女は廿四個月なり。
- (3) 大頤門閉鎖期—生後凡そ十三個月乃至十四個月に於て閉鎖す、而して其の最も早きは男女共に生後六個月にして、最も遅きは男は二十三個月、女は二十一個月なり。
- (4) 初生兒の體重—男女平均三〇〇〇瓦にして、男兒は二九五〇乃至三〇〇〇瓦、女兒は二八〇〇乃至二九〇〇瓦、而して生後五乃至六個月に至り分娩時の二倍となり、十二個月に至りて三倍となり、五歳に至りて五倍し、男は十三—十四歳、女は十二—十三歳に至りて十倍す。
- (5) 初生兒の身長—男女平均四九糎にして、生後五—六歳に至り分娩時の二倍となり、十

五六歳に至りて三倍となる。

- (6) 初生兒の頭圍及胸圍—頭圍は男兒三三・八糎、女兒三三・三糎にして、胸圍は男兒三二・四糎、女兒三二・三糎なり。
- (7) 哺乳兒の體重—人乳を以て養育したる小兒は生後五個月に達する迄に最初の體重の二倍となり、十二月に至りて三倍となる。
- (8) 哺乳兒の身長—第一學年間の身長増加は、男兒二四・四糎、女兒二四・二糎、平均約二四糎なり。
- (9) 哺乳兒の頭圍—男兒は分娩より十二個月間に一一・六糎、女兒は一〇・八糎、平均一一糎の頭圍増加をなす。
- (10) 哺乳兒の胸圍—分娩より十二個月間に、男兒は一三・三糎、女兒は一三・一糎、平均一三糎の胸圍増加をなす。
- (11) 兒童の體重—體重増加の趨勢は本邦に於ては第一年間に増量の六斤なるものが、二歳に至りて増加の力を急減するの點は、歐洲の夫れに同じと雖も、三歳に於て増加の力最も少しとは云ふべからず、且つ可なりの増量をなすは男兒は八歳、女兒は九歳にして、其後多くの増加をなすものなり、又十五歳迄に三五斤の増量をなすも、本邦にては成人體重男五三—五四斤、女四六斤の半ばに達するは、却つて女は十歳乃至十一歳、男は十一歳乃至十二歳にあり、次に本邦の季節と體重の増減は、冬季に於て體重増加

し、春季に於て或は静止し又は多少増減し、夏季に於ては多く静止若くは減少す(海軍事務局第十五次報告を基礎とす)

(12) 兒童の身長—女子の身長は男子に比すれば、分娩より成長の終りに達する迄の間に比較上少き増加をなすものなり、本邦に於ては女子は凡九八種(即ち成人一四六種)、男子は凡一〇九種(即ち成人一五八種)の増加をなす、而して本邦の小兒は、分娩後滿一年迄に男兒は二四・四種、女兒は二四・二種の發育をなす、其の後學齡に達する迄の小兒の發育は未だ決して外國に劣るものあるを知らず、只發情期以後に至れば其の發育の勢頓に減じて、成長の極度に達するに迫んで其の差實に甚だし、之れ早熟人種なるが故なり。

(13) 兒童の頭圍—頭圍の發育は身長の發育と關係し、第一年に於ては身長半ばだけ發育するを常とし、又胸圍及び體重の増加に従つて増加すべし。

各年増加の割合は分娩より滿一年に至るまで最も多く、男は一・六、女は一〇・八種なり、之に亞ぐは一年より二年(即二歳迄)にして、男は一・三、女は一・七種なり、其の他は一・三より〇・二種の間を往來す、而して十二歳乃至十五歳に至る女兒の平均頭圍並に十二歳乃至十四歳に至る各年の増加が男兒に優るは、是れ發情期に關係を有す。

(14) 兒童の胸圍—第一年に於ける胸圍の増加は、男一・三、女一・二種にして、此の平均一・二・七種なり、二歳以後五歳迄の増加は著しからざるも、五六歳の間に於ては男女共二

種以上の増加をなす、又十歳以後の増加は漸次多大となり、殊に女兒に於て十一歳乃至十五歳に於て男兒に勝るの増加をなすは、發情期に際するが爲めにして、就中十四五兩歳間に於ける女兒の四・二の増加の如きは、全く乳房の發育を意味するものなり。

(15) 發情期關係—女子の身長が男兒子を凌駕するは、十二歳より十四歳の三年間なり、又女子の體重が男兒を凌駕するは、十二歳より十五歳の四年間なり。

本邦女兒の發情期的發育は、十一歳より十四歳に至る四年間にして、男兒は十二歳乃至十六歳の五年間(?)なり。

(16) 指極—十五歳に至る本邦小兒の指極は、之を身長に比して常に一〇〇%以下にあり、
(17) 下肢長—幼兒を除き、十五歳に至る兒童の下肢は、身長に對して凡そ平均四九・五%に過ぎず、故に本邦人の短身なるは、必竟下肢の短かきが爲にして、其原因は人種に由ること明かなれども、千年以上の習慣となれる居坐復た往々之に關係あり。

身長・體重・胸圍發育表 (三島博士調査)

年 齡	男			女		
	身長 cm.	體重 k.g.	胸圍 cm.	身長 cm.	體重 k.g.	胸圍 cm.
初 生	四九・一	三・〇	三二・四	四八・七	二・九	三二・三
一 年 兒	七三・五	九・〇	四五・七	七二・九	八・五	四四・四

二	七九・五	一〇・八	四六・八	七八・九	九・九	四六・二
三	八五・四	一二・四	四八・一	八四・九	一一・五	四七・二
四	九一・七	一三・七	四九・五	九一・〇	一二・九	四八・六
五	九七・四	一五・二	五〇・五	九六・五	一四・五	四九・八
六	一〇二・八	一六・五	五二・七	一〇二・四	一六・〇	五一・九
七	一〇八・三	一七・八	五四・一	一〇七・二	一七・二	五三・〇
八	一一三・八	一九・一	五五・五	一一二・〇	一八・七	五四・〇
九	一一八・三	二一・〇	五七・二	一一六・二	二〇・五	五六・一
〇	一二二・八	二三・〇	五九・二	一二〇・四	二二・三	五八・〇
一	一二七・〇	二五・〇	六一・四	一二五・九	二四・四	六〇・二
二	一三〇・八	二七・二	六三・一	一三二・三	二七・八	六二・五
三	一三五・二	二九・八	六四・九	一三九・〇	三一・四	六五・〇
四	一四一・五	三三・六	六六・九	一四三・二	三六・五	六七・七
五	一四六・三	三八・七	六九・一	一四四・七	三八・二	七一・九

數量上に現はれたる兒童發育と貧富との關係——ブローカ、ボデウス其他の學者は、貧富の關係よりも人種或は遺傳が身長に影響すと説けり、夫れ或は然らん然れども翻て同一人種に於ける身體の長短に影響する所のものは、三島博士の所謂身分・職業並に生活地の如何が絶對的にあらずとするも比較的の影響を及ぼすものあるを思ふなり、况んや發育時期にある兒童の身體の如きは此等の影響を受くる顯著なる事實存すべき

なり又何ぞ一顧に價する問題ならずとせんや。

(1) 材料——本問題を解説せんが爲めに材料として集むべく選定せし學校は左の如し。

府下目白	學習院
永田町	學習院女子部
富兒	精華小學校
九段	曉星小學校
九段	高千穂小學校
牛込	東京高等師範學校附屬小學校第一部第二部
下谷	萬年町 特種小學校
四谷	鮫ヶ橋 特種小學校
貧兒	新網 特種小學校
芝	靈岸島 特種小學校
淺草	玉姫 特種小學校

而して被檢生徒數は左の如し。

富兒	男	七千六百五十七人
富兒	女	四千八百八十六人

貧兒 男 六千九百十八人
女 六千五百五十五人

(2) 日本學生々徒及兒童の中等發育——貧兒及富兒の發育狀況を對比すべき標準として採用せし所のものは、予古瀬が明治四十四年國家醫學會雜誌に發表したる學生々徒及兒童の發育表(第一表第二表)なり、此の二表は全國の學校より毎年報告せらるる學生々徒及兒童身體檢査成績中より、其の十年平均を計上せしものとす、而して第三表は第一表と第二表との間に存する差、即ち男女各年齡の發育の差を示せるものなり、以上の三表に依りて左の事實を窺ふを得べし。

- 一、身長は男子が常に女子を凌ぐと雖も、女子十二歳より次第に男子に近づき來り、十三歳に於ては男子を凌駕す、而して十四歳に於ては再び男子に凌がる。
- 二、體重は男子が常に女子を凌ぐと雖も、女子は十二歳より男子に近づき來り、十三歳並に十四歳に於て男子を凌駕し、十五歳に於て男子と相對し、十六歳に至りて始めて明かに男子に凌がる。
- 三、胸圍は男子は常に女子を凌ぐ成績を示せり、而して後述の絕對發育表が示す如く、女子胸圍絕對發育は十一歳以後に於て著しき増加を示すと雖も、三島博士の調査成績に現はれたる女子乳房の發育を意味しての女子の胸圍が男子を凌駕するの狀況は遂に見る能はず、但し此の點に關しては將來の再調査に譲ることとせん。

四、身長・體重・胸圍の各欄を通じて最も優秀の成績を現はす時期は、男子は二十一歳女子は二十歳なり。

五、優秀體重の半に達する年齢は、男十二歳女は十一歳なり。

(3) 貧富別にせる兒童の發育狀態——第四表第五表は貧富別にせる兒童の發育と中等發育兒童との比較を示せるものなり、而して此等の表より左の事實を窺ふを得。

(甲) 富兒と中等發育兒との比較
一、身長・體重は男女共に富兒は中等發育兒に勝り、其の胸圍は男女共中等發育兒に劣る。

二、富兒は中等發育兒に比し身長は全小學時代を通じて各年平均四・二仙迷、女子は三・五仙迷の優勢を示し、體重は男〇・九一基瓦、女〇・九六基瓦勝れり、而して其の胸圍は男〇・八仙迷、女二・七仙迷丈、中等發育兒よりも劣れり。

(乙) 貧兒と中等發育兒との比較

一、貧兒は男女共其の身長・體重並に胸圍が中等發育兒よりも劣れり。

二、貧兒は中等發育兒に比し全小學時代を通じての各年平均に於て、身長は男一・四仙迷、女一・二仙迷、體重は男〇・九基瓦、女〇・六基瓦、胸圍は男一・三仙迷、女〇・九仙迷、丈劣れり。

(4) 貧富別比較——第六表は貧兒富兒を直接に比較せるものにして、左の結果を見るを

得

- 一、身長及び體重は男女共富兒勝れり。
- 二、胸圍は男子に於ては七八歳に於て貧兒勝ると雖も、九歳以後は各年富兒勝れり、而して女子に於ては全小學時代を通じて富兒劣れり。
- 三、全小學時期を通じ各年平均に於て富兒は身長に於て男五・六仙迷女四・七仙迷、體重は男一・九基瓦女一・六基瓦、富兒に勝れり、而して胸圍は男〇・五仙迷、富兒勝ると雖も女子は一・八仙迷、富兒よりも劣れり。
- 四、貧富別兒童の發育上の差の顯著なるは、男女共大體に於て十二歳以後なり。
- (5) 半身長對胸圍關係(第七表)——小學時代の多くに於て胸圍は素より半身長に達せず、然れども中等發育兒童の半身長と胸圍の差を標準とし、之に富兒及び貧兒の夫れを對比するときは其の間自ら差あり、即各年に於ける富兒の半身長對胸圍の差數は貧兒の夫れより大にして、貧兒の同數は中等發育兒童の夫れより大なり、殊に富める家庭の女子に於ける該差數の大なるは注意すべき事なりとす。
- (6) 半身長對胸圍比數——半身長を一とし之に對する胸圍の比を見るに、第八表に示せる如き關係を有す、即男子九歳以前にありては胸圍は半身長よりも大なり、而して十歳以後に於ては身長が増加すること胸圍の増加するより遙かに多きを以て、半身長對胸圍の比數は常に一以下にあり、而して十八歳に至りて再び半身長に達し、以後次第に胸

圍を増大し、二十一歳に於て最高の成績に達す、女子は七歳に於て胸圍既に半身長に達せず、爾後年を重ねて低落せる比數を示し、十六歳に於て半身長に達す、即ち男子に先立つこと二ヶ年なり、其の此處に到る所以のものは、正に乳房の發育に歸因するものごなすべし、次に十六歳以後に於ける各年の増加は漸次に進み、二十歳に達して最高の比數を占むるに至る、而して第九表によりて富兒は貧兒に比し各年齢を通し男女共右比數の減する度合烈しく、之を中等發育兒童に比すれば更に一層急激なることを知るを得べし。

(7) 中等發育兒の絶對發育——中等發育兒童の絶對發育を示す第十表より、左の解説を試む。

一、アクセル、キーが男子發育の三大期を分類せしことに倣ふて、本邦學校生活中の者を分類すれば左の如し。

(イ) 七歳より十一歳迄を第一期と認む、而して此處に七歳よりと假稱するは本調査が七歳より起り、而してアクセル、キーの第一期が七歳より十三歳に至る間を指定せしによる、然れども歐洲人を以て直ちに本邦に直す能はず、且つ三島博士は六歳より始まり十一歳に終ると論せられし事あれば寧ろ六歳よりと言ふ方可ならんか、而して本成績に徴すれば十一歳に於ける發育状態は、七歳以後十一歳に至る間に於て、其の身長並に胸圍の増加は最低なることを示せり。

(ロ)第二期は十三歳に始まり十六歳に終るものとす、而して身長發育最旺盛なるは十四歳にして六・九仙迷なり、又體重は其の翌年即十五歳にして五・八基瓦に達す、故を以て本成績は三島博士の報告よりも一歳後れ、キー氏の歐洲兒童に就きての報告に比し一歳早し。

(ハ)男子發情期的發育期間は十二歳より十六歳に至る五ヶ年間を推定すべしと云ふも、最も顯著に現はるゝ時期は十三歳より十六歳に至る四ヶ年間なり。

(ニ)女子體重は十二歳に於て急激に増加し四・二となり、十三歳に於て少しく増加の度合減少し、十四歳に於て又再び増大して最高に達す、而して餘勢猶ほ十五歳に及び、十六歳に至りて急に低落す、又胸圍は體重と同一關係にありて、十四歳に於て最高に達す、而して身長は少しく其の狀況を異にし、十歳に於て既に増加の趨勢を示し、十二歳に於ては七・二仙迷の最高増加となれり、而して十六歳以後は頓に増加量最低減す。

(ホ)女子發情期的發育期間は十一歳に始まり十五歳に終ると云ふべきも、最も顯著に現はるゝは十二歳より十五歳に至る四ヶ年間を推すべきなり。

(ヘ)女子身長發育が明かに男子を凌駕し始むる年齢は十歳にして、爾後年を追ふて次第に増大し、十二歳に於て最高に達す、而して其翌年は正に男子發情期的發育に入りて急激の増大をなす年なるを以て、遂に男子を凌ぐ能はず。

(ト)發情期的發育時期以後即キー氏が所謂第三期に於ける女子身長各年の増加は遅々として進み、遂に男子に及ばず、二十歳に至りて其の極點に達す。

(チ)女子體重の絶對の増加が男子に勝るは十歳に始まり十二歳に於て急激に超越し、爾後十四歳に於ける女子最高の發育が餘勢十五歳に及ぶものありと雖も、遂に男子を凌ぐ能はず。

(リ)女子胸圍は十一歳より男子を凌駕し始め、十二歳に至りて急激に超過最大となり、十三歳に入りて男子が始めて急激の増加をなすを以て相對抗するも、十四歳に於ては女子胸圍發育の最高點に達する時期なるを以て、遂に男子を凌ぐ、而して其の翌年に至りても餘勢猶ほ止まることなきも、同年は男子の發育最も旺盛なる時期に當るを以て、遂に男子に及ばず。

(ヌ)第三期に於ける女子の體重及胸圍は各年の増加遙かに男子より劣る。

(8)貧富別絶對發育の對比、第十一表が示す所により左の解説をなさんごす。

一、富兒男の身長は七八歳に於ては猶ほ増加の度合高きも、九歳乃至十三歳は其の度合低く、内十二歳に於てが最低數を示す、而して十三歳に至りて急に増大す。

二、貧兒男の身長は各年の度合八歳より低下し、十一歳に於ては其の増加極めて僅かにして、十二歳より再び増加の勢力を増し、十三歳に於て著明に増大す。

三、富兒男の體重は十歳に於て増加すること最も僅かにして、十二歳より増大する傾

向を示し、十三歳に達して始めて著しく増大す。
四、貧兒男の體重は十歳に於ける増加數僅かにして十二歳より増加明かになり、十三歳に於て著しく現はる。

五、富兒男の胸圍は十一歳にて最小にして、十三歳にて急増す。

六、貧兒男の胸圍の關係は富兒に等し。

七、以上よりして富兒貧兒共男兒に於ては十三歳に於て最も顯著なる増加を示すこと中等發育兒に等しと雖も、内貧兒は十一歳に於ける全發育の増加極めて僅かにして、十二歳に入りて稍々目立てる急速の増加をなし、更に十三歳に入りて顯著の増加をなすの觀あり。

八、女子の中等發育のものに於て發情期的發育中に其の發育の旺盛なる二つの年齢を認む、即第十表に示す如く十二歳並に十四歳に於ける發育は極めて優良なり、如斯にして之を貧富別にせる女子の發育に對照せんこと、但し十四歳迄の材料を以てせる成績なるを以て斷定的ならざるや勿論なり。

(イ) 富女發育の優良なる二つの年齢は十一歳及び十三歳なり。

(ロ) 貧女子にて同一關係の年齢は十歳並に十三歳なり。

(ハ) 富貧女兒共に十三歳に於ける優勢なる發育時期の到來せることは、中等發育兒の十二歳及び十四歳に於ける發育旺盛時期と異なる所なり。

(ニ) 富女兒は中等發育兒童に比し一年早く、貧女兒は二年早くキー氏の第二期中の旺盛發育時期に入る、而して富女兒は二ケ年間に於て即十三歳に於て、貧女兒は三ケ年目即十三歳に於て再び旺盛の發育時に到達するもの、如し然れども十四歳以下の成績を缺くを以て、斷定的に明言する能はざるを遺憾とす。

(附記) 本文中の年齢は、四月一月を以て年齢計算の基礎日とせり、故に七歳と稱するは滿六歳一日より滿七歳に至る間を云ふなり。

(9) 總括—以上を通過して吾人は富裕なる家庭の兒女を教養すべき任に當れるものに向て、此等兒童の胸圍を増加せしむべき様の注意を必要とし、殊に女子に向て其の要の切なるものあるを警告す、又貧兒に向ては其の榮養状態を佳良ならしむべき様何等かの救済を、必要なりと信ず、但し其は國家の力を借ると私人の恩恵に待つと敢て識者の解を待たんのみ。

第一表 學生々徒及兒童中等發育表 (男)

年齢	検査人員	身長(仙達)	體重(基瓦)	胸圍(仙達)
七	六八、四三九	一〇六・八	一七・五	五四・一
八	七四二、八九八	一一一・一	一九・三	五五・九
九	七二五、二六四	一一五・六	二一・〇	五七・七
一〇	七〇五、四五四	一二〇・三	二二・八	五九・六

第三表 年齡別男女發育差異表

年齡	身長(仙達)	體重(基瓦)	胸圍(仙達)	年齡	身長(仙達)	體重(基瓦)	胸圍(仙達)
七	一一·二	〇·七	一·六	一七	九·四	二·八	一·九
二五	一一·二	一〇·二	一四九·二	二五	一一·二	一〇·二	一四九·二
二四	一一·一	一〇·一	一四八·七	二四	一一·一	一〇·一	一四八·七
二三	一一·〇	一〇·〇	一四八·六	二三	一一·〇	一〇·〇	一四八·六
二二	一〇·九	九·九	一四八·五	二二	一〇·九	九·九	一四八·五
二一	一〇·八	九·八	一四八·四	二一	一〇·八	九·八	一四八·四
二〇	一〇·七	九·七	一四八·三	二〇	一〇·七	九·七	一四八·三
一九	一〇·六	九·六	一四八·二	一九	一〇·六	九·六	一四八·二
一八	一〇·五	九·五	一四八·一	一八	一〇·五	九·五	一四八·一
一七	一〇·四	九·四	一四七·九	一七	一〇·四	九·四	一四七·九
一六	一〇·三	九·三	一四七·八	一六	一〇·三	九·三	一四七·八
一五	一〇·二	九·二	一四七·七	一五	一〇·二	九·二	一四七·七
一四	一〇·一	九·一	一四七·六	一四	一〇·一	九·一	一四七·六
一三	一〇·〇	九·〇	一四七·五	一三	一〇·〇	九·〇	一四七·五
一二	九九·九	八·九	一四七·四	一二	九九·九	八·九	一四七·四
一一	九九·八	八·八	一四七·三	一一	九九·八	八·八	一四七·三
一〇	九九·七	八·七	一四七·二	一〇	九九·七	八·七	一四七·二
九	九九·六	八·六	一四七·一	九	九九·六	八·六	一四七·一
六三六、四九一	六三六、四九一	二〇·一	五五·八				
五九〇、二八五	五九〇、二八五	二二·〇	五七·八				
四六八、九四〇	四六八、九四〇	二四·二	五九·一				
三四九、六〇五	三四九、六〇五	二六·八	六一·一				
二六〇、六九二	二六〇、六九二	三〇·九	六四·〇				
一九二、二五一	一九二、二五一	三四·四	六六·七				
九四、九四三	九四、九四三	三八·六	七〇·一				
六四、二二九	六四、二二九	四二·三	七三·〇				
四〇、一三三	四〇、一三三	四五·〇	七五·二				
二二、八三二	二二、八三二	四六·八	七六·八				
一〇、三七九	一〇、三七九	四七·六	七七·七				
四、六〇二	四、六〇二	四八·一	七八·〇				
一、八六五	一、八六五	四八·一	七六·六				
一、〇六四	一、〇六四	四八·八	七六·五				
五四〇	五四〇	四七·五	七六·四				
三〇八	三〇八	四七·二	七六·三				
一〇二	一〇二	四七·二	七五·〇				

第二表 學生生徒及兒童中等發育表(女)

年齡	檢査人員	身長(仙達)	體重(基瓦)	胸圍(仙達)
八	六一二、二七〇	一〇五·六	一六·八	五二·五
七	六六七、一三三	一〇九·九	一八·四	五四·〇
二五	六八三、五〇三	一二四·六	二四·九	六一·四
二四	六〇七、三三七	一二八·六	二七·一	六三·一
二三	五二五、六一一	一三三·六	二九·八	六五·〇
二二	四五九、一三八	一三九·四	三三·五	六七·七
二一	三〇四、八七九	一四六·三	三八·六	七一·〇
二〇	二四〇、〇二三	一五二·五	四四·四	七四·三
一九	一九八、三三四	一五六·七	四七·八	七七·一
一八	一五二、九四五	一五八·九	五〇·三	七九·一
一七	一〇七、八六五	一六〇·〇	五二·三	八〇·六
一六	七六、六八一	一六〇·五	五三·五	八一·五
一五	五八、二七四	一六〇·八	五四·一	八一·八
一四	四一、五八二	一六〇·七	五四·一	八一·五
一三	二八、〇八五	一六〇·八	五三·九	八一·六
一二	九一、一三七	一六一·〇	五三·六	八一·一
一一	一三、六四二	一六一·二	五三·三	八一·二

年 齡 人 員	男		女	
	實	差	實	差
七	九六八	減一〇	一七四	減〇・一
八	一三八四	減〇・一	一八五	減〇・八
九	一四七二	減〇・九	二〇六	減〇・四
一〇	一三三八	減〇・六	二二五	減〇・三
一一	一二五五	減〇・三	二四〇	減〇・九
一二	一一二二	減〇・四	二五八	減〇・五
一三	九九九	減〇・七	二七九	減〇・五
一四	八八〇	減〇・三	二九八	減〇・三
一五	七六一	減〇・三	三一五	減〇・一
一六	六五二	減〇・二	三三二	減〇・一

第五表 貧ナル小學兒童ト中等發育兒トノ發育比較表

年 齡 人 員	男		女	
	實	差	實	差
七	六四四	增三・三	一七四	增〇・九
八	七〇三	增三・二	一九三	增〇・九
九	七六二	增三・一	二一四	增〇・三
一〇	八二一	增三・一	二三〇	增〇・七
一一	八八〇	增三・一	二四七	增〇・七
一二	九三九	增三・一	二六四	增〇・七
一三	九九八	增三・一	二八〇	增〇・七
一四	一〇五七	增三・一	二九七	增〇・七
一五	一一一六	增三・一	三一四	增〇・九
一六	一二七五	增三・一	三三一	增〇・九

第四表 富ナル小學兒童ト中等發育兒童トノ發育比較表

年 齡 人 員	男		女	
	實	差	實	差
七	一〇七四	增三・三	一七四	增〇・九
八	一一三三	增四・一	一九三	增〇・九
九	一二〇三	增四・一	二一四	增〇・三
一〇	一二七三	增四・一	二三〇	增〇・七
一一	一三四三	增四・一	二四七	增〇・七
一二	一四一三	增四・一	二六四	增〇・七
一三	一四八三	增四・一	二八〇	增〇・七
一四	一五五三	增四・一	二九七	增〇・七
一五	一六二三	增四・一	三一四	增〇・九
一六	一七〇三	增四・一	三三一	增〇・九

年 齡 人 員	男		女	
	實	差	實	差
七	一〇六・八	減〇・九	一七・四	減〇・八
八	一一一・一	減〇・七	一八・八	減〇・九
九	一一五・六	減〇・八	二〇・三	減〇・九
一〇	一二〇・一	減〇・九	二一・八	減〇・八
一一	一二四・六	減〇・九	二三・三	減〇・七
一二	一二九・一	減〇・九	二四・八	減〇・六
一三	一三三・六	減〇・九	二六・三	減〇・五
一四	一三八・一	減〇・九	二七・八	減〇・四
一五	一四二・六	減〇・九	二九・三	減〇・三
一六	一四七・一	減〇・九	三〇・八	減〇・二

第六表 富メル小學兒童ト貧ナル小學兒童トノ發育比較表

年 齡	身 長 (仙達)		體 重 (基次)		胸 圍 (仙達)	
	富	貧	富	貧	富	貧
八	一一三・一	一〇九・七	一九・三	一八・三	五二・二	五三・五
七	一一〇・一	一〇五・八	一七・九	一八・四	五三・二	五四・〇
六	一一一・〇	一〇七・〇	一七・五	一八・五	五三・九	五四・八
五	一一二・三	一〇八・七	一七・六	一八・六	五四・九	五五・八
四	一一三・五	一〇九・六	一七・七	一八・七	五五・〇	五五・九
三	一一四・六	一一〇・三	一七・八	一八・八	五五・一	五五・九
二	一一五・二	一一一・〇	一七・九	一八・九	五五・二	五五・九
一	一一六・三	一一一・七	一八・〇	一九・〇	五五・三	五五・九
九	一一七・四	一一二・四	一八・一	一九・一	五五・四	五五・九
八	一一八・五	一一三・一	一八・二	一九・二	五五・五	五五・九
七	一一九・六	一一三・八	一八・三	一九・三	五五・六	五五・九
六	一二〇・七	一一四・五	一八・四	一九・四	五五・七	五五・九
五	一二一・八	一一五・二	一八・五	一九・五	五五・八	五五・九
四	一二二・九	一一五・九	一八・六	一九・六	五五・九	五五・九
三	一二三・〇	一一六・〇	一八・七	一九・七	五五・〇	五五・九
二	一二三・一	一一六・一	一八・八	一九・八	五五・一	五五・九
一	一二三・二	一一六・二	一八・九	一九・九	五五・二	五五・九

第七表 貧富並ニ中等發育兒童ノ半身長對胸圍比較表

年 齡	男		女	
	富	貧	富	貧
九	五五・一	五三・二	一一七・四	一一三・九
八	五五・六	五三・七	一一二・六	一一七・五
七	五五・一	五三・二	一一〇・三	一一三・二
六	五四・五	五二・六	一一〇・三	一一三・二
五	五四・五	五二・六	一一〇・三	一一三・二
四	五四・五	五二・六	一一〇・三	一一三・二
三	五四・五	五二・六	一一〇・三	一一三・二
二	五四・五	五二・六	一一〇・三	一一三・二
一	五四・五	五二・六	一一〇・三	一一三・二
九	五三・六	五一・七	一一〇・三	一一三・二
八	五三・一	五一・二	一一〇・三	一一三・二
七	五二・六	五〇・七	一一〇・三	一一三・二
六	五二・一	五〇・二	一一〇・三	一一三・二
五	五一・六	四九・七	一一〇・三	一一三・二
四	五一・一	四九・二	一一〇・三	一一三・二
三	五〇・六	四八・七	一一〇・三	一一三・二
二	五〇・一	四八・二	一一〇・三	一一三・二
一	四九・六	四七・七	一一〇・三	一一三・二

年齡	男				女			
	身長(仙達)	體重(基瓦)	胸圍(仙達)	胸圍(仙達)	身長(仙達)	體重(基瓦)	胸圍(仙達)	胸圍(仙達)
七	四・三	一・八	一・八	四・三	四・三	一・六	一・五	二・二
八	四・三	一・七	一・八	四・三	四・四	一・七	一・八	二・二
九	四・三	一・八	一・九	四・三	四・五	一・九	一・九	二・三
〇	四・三	一・七	一・八	四・三	四・四	一・七	一・八	二・三
一	四・〇	二・一	一・八	四・〇	四・四	二・二	一・九	二・四
二	五・〇	二・七	一・九	四・七	四・五	二・六	二・〇	二・五
三	五・八	三・七	二・一	五・一	四・七	三・一	二・一	二・六
四	六・九	五・一	二・七	六・二	四・八	四・一	二・二	二・七
五	六・九	五・一	三・一	六・二	四・八	四・一	二・二	二・七
六	六・二	五・八	三・三	五・八	四・一	四・二	二・三	二・九
一六	四・二	三・四	二・八	三・三	三・七	二・七	二・二	二・二

第十表 學生々徒及兒童絕對發育表

年齡	男				女			
	身長(仙達)	體重(基瓦)	胸圍(仙達)	胸圍(仙達)	身長(仙達)	體重(基瓦)	胸圍(仙達)	胸圍(仙達)
八	〇・九五	〇・九九	一・〇一	〇・九五	〇・九五	〇・八八	〇・九八	〇・九八
九	〇・九五	〇・九九	〇・九九	〇・九五	〇・九五	〇・八八	〇・九六	〇・九八
〇	〇・九四	〇・九七	〇・九九	〇・九五	〇・九五	〇・八八	〇・九五	〇・九七
一	〇・九四	〇・九七	〇・九九	〇・九五	〇・九五	〇・八八	〇・九五	〇・九七
二	〇・九三	〇・九七	〇・九九	〇・九五	〇・九五	〇・八八	〇・九五	〇・九六
三	〇・九三	〇・九七	〇・九九	〇・九五	〇・九五	〇・八八	〇・九五	〇・九六
四	〇・九四	〇・九七	〇・九九	〇・九五	〇・九五	〇・八八	〇・九五	〇・九六

第九表 半身長ニ對スル胸圍比較表

年齡	富	貧	中	男		女	
				比較	比較	比較	比較
七	〇・九七	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇六	一・〇三
八	一・〇〇	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇二	一・〇三
九	一・〇〇	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇二	一・〇三
〇	一・〇〇	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇二	一・〇三
一	一・〇〇	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇二	一・〇三
二	一・〇〇	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇二	一・〇三
三	一・〇〇	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇四	一・〇二	一・〇三

第八表 半身長對胸圍比較表 (半身長ヲ一・〇トス)

年齡	男				女			
	比較	比較	比較	比較	比較	比較	比較	比較
七	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一
八	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一
九	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一
〇	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一
一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一
二	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一
三	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一	一・〇一

年齢	身長 (仙達)		體重 (基瓦)		胸圍 (仙達)	
	富	貧	富	貧	富	貧
七	五・一	四・三	一・六	一・一	一・七	一・五
八	五・二	四・四	二・一	一・七	一・七	一・五
九	五・三	四・五	二・六	一・八	一・八	一・五
一〇	五・四	四・六	三・一	二・一	一・九	一・六
一一	五・五	四・七	三・六	二・四	二・〇	一・六
一二	五・六	四・八	四・一	二・七	二・一	一・六
一三	五・七	四・九	四・六	三・〇	二・二	一・六
一四	五・八	五・〇	五・一	三・三	二・三	一・六

第十一表 貧富並ニ中等發育兒童絕對發育比較表

年齢	身長 (仙達)		體重 (基瓦)		胸圍 (仙達)	
	富	貧	富	貧	富	貧
七	四・二	三・三	一・一	一・一	一・七	一・五
八	四・三	三・四	一・六	一・二	一・七	一・五
九	四・四	三・五	二・一	一・五	一・八	一・五
一〇	四・五	三・六	二・六	一・八	一・九	一・五
一一	四・六	三・七	三・一	二・一	二・〇	一・五
一二	四・七	三・八	三・六	二・四	二・一	一・五
一三	四・八	三・九	四・一	二・七	二・二	一・五
一四	四・九	四・〇	四・六	三・〇	二・三	一・五

年齢	身長 (仙達)		體重 (基瓦)		胸圍 (仙達)	
	富	貧	富	貧	富	貧
七	四・二	三・三	一・一	一・一	一・七	一・五
八	四・三	三・四	一・六	一・二	一・七	一・五
九	四・四	三・五	二・一	一・五	一・八	一・五
一〇	四・五	三・六	二・六	一・八	一・九	一・五
一一	四・六	三・七	三・一	二・一	二・〇	一・五
一二	四・七	三・八	三・六	二・四	二・一	一・五
一三	四・八	三・九	四・一	二・七	二・二	一・五
一四	四・九	四・〇	四・六	三・〇	二・三	一・五

都會兒童の身體發育—身體發育に影響する事項は極めて多し、而して都會に住居すと云ふ一般的條件の下に蒐集されし幾多の調査成績の如きも亦特種の注意を惹き得べきを以て、東京市役所教育課が編せし東京、京都及び大阪の三市並にハンブルグ及びポストン兩市の比較調査を左に掲ぐ。

(1) 身長—先づ東京市其他の兒童の平均身長を、年齢によりて表示すれば左の如し。

年齢	東京市		日本全國		大阪市		京都市		ハンブルグ市		ポストン市	
	大正四年	大正二年	大正四年	大正二年	大正四年	大正四年	大正四年	明治四十三年	不	明		
七歳	三・三・五八	三・三・五八	三・三・六七	三・三・六七	三・三・七一	三・三・七一	三・三・七〇	三・三・八二	三・三・八二	三・三・八二	三・三・八二	
八歳	三・三・五八	三・三・五八	三・三・六七	三・三・六七	三・三・七一	三・三・七一	三・三・七〇	三・三・八二	三・三・八二	三・三・八二	三・三・八二	

九歳	十歳	十一歳	十二歳	十三歳	十四歳	十五歳	十六歳
女	女	女	女	女	女	女	女
三三・八八	三四・〇七	三四・一七	三四・三二	三四・四七	三四・六四	三四・八〇	三四・九六
三三・七二	三三・九八	三四・〇三	三四・一八	三四・三三	三四・四八	三四・六三	三四・七八
三三・八七	三四・〇二	三四・〇七	三四・二二	三四・三七	三四・五二	三四・六七	三四・八二
三三・八八	三四・〇九	三四・一四	三四・二九	三四・四四	三四・五九	三四・七四	三四・八九
四四・一六	四四・三二	四四・四八	四四・六四	四四・八〇	四四・九六	四五・一二	四五・二八
四四・一六	四四・三二	四四・四八	四四・六四	四四・八〇	四四・九六	四五・一二	四五・二八
四四・一六	四四・三二	四四・四八	四四・六四	四四・八〇	四四・九六	四五・一二	四五・二八
四四・一六	四四・三二	四四・四八	四四・六四	四四・八〇	四四・九六	四五・一二	四五・二八
四四・一六	四四・三二	四四・四八	四四・六四	四四・八〇	四四・九六	四五・一二	四五・二八
四四・一六	四四・三二	四四・四八	四四・六四	四四・八〇	四四・九六	四五・一二	四五・二八

右の表によりて我が國の兒童は外國の兒童に比し身長に於て著しく劣る所あり(人の種の相違上已むなき事なるも)而して殊に我が國三都及び全國の兒童は遅速こそあれ十四歳若くは十五歳位にて其の發達弛緩するにもかゝはらず外國の兒童に於ては、この年齢に於て却つて一層急激なる發達をなすを見る。是れ我が國民の早熟なるが故なり。次に全國兒童平均と東京市等の都會の兒童との間に於ける差は、全體に都會の兒童が身長に於ては優れるを知り得べし。然れども胸圍及び體重は其の差大ならざるか若くは却つて全國兒童の方優れたるを見るべし。

次に三都によりて比較するに、九歳より十二歳までに於て最も優秀なるは京都市にして、十三歳及び十四歳の二年に於ては大阪市兒童最も優ぐれ、最後は東京市の兒童最も優秀なるを見るなり。更に之を東京市兒童の身長を一〇〇として他の都市の兒童の身長を對比すれば、次の如し。

七歳	八歳	九歳	十歳	十一歳	十二歳	十三歳	十四歳	十五歳
女	女	女	女	女	女	女	女	女
九九・六五	九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・六五	九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・六五	九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・六五	九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・六五	九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四
九九・三〇	九九・四六	九九・七五	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四	九九・八四

十六歳	九八・七五
平均	九八・六二
男	一〇〇・二二
女	九八・七五

この表を見れば一層明白に右の現象を知ることが得、即ち七歳より十六歳に至るまでの身長平均に於ては、東京市の兒童に比し全國最も劣等にして、大阪市に次ぎ、京都市に於ては男子は劣り、女子は勝れるを見る(漢堡及びボストンに於ては東京市兒童よりは約七八分つゝ大なり)。

(2) 體重—更に體重に關しては左の如き成績なり。

東京市	全 國	大阪市	京都市	漢堡市	ボストン市
七歳	四四・六六	四四・六六	四四・六六	五五・七三	五五・七六
八歳	四五・一〇	四五・一〇	四五・一〇	六六・二四	六六・三五
九歳	五五・三七	五五・三七	五五・三七	六六・七八	六六・七二
十歳	六六・四九	六六・四九	六六・四九	七七・五五	七七・六五
十一歳	七二・三二	七二・三二	七二・三二	八八・一三	八八・一七
十二歳	七三・四六	七三・四六	七三・四六	九八・二五	九八・一六

次に東京兒童の體重を一〇〇として各地の兒童の比を求むれば次の如し。

東京市	全 國	大阪市	京都市	漢堡市	ボストン市
十三歳	七八・八三	七八・八三	七八・八三	一〇九・七六	一〇〇・三五
十四歳	八八・五六	八八・五六	八八・五六	一一〇・二八	一一〇・二八
十五歳	九九・〇七	九九・〇七	九九・〇七	一二〇・〇〇	一二〇・〇〇
十六歳	一一〇・二七	一一〇・二七	一一〇・二七		

東京市	全 國	大阪市	京都市	漢堡市	ボストン市
七歳	九〇・二五	九〇・二五	九〇・二五	一一二・三二	一一二・三二
八歳	九九・二二	九九・二二	九九・二二	一二二・四〇	一二二・四〇
九歳	九九・〇八	九九・〇八	九九・〇八	一二二・五〇	一二二・五〇
十歳	九九・六五	九九・六五	九九・六五	一二二・六三	一二二・六三
十一歳	九九・四五	九九・四五	九九・四五	一二二・七三	一二二・七三
十二歳	九九・四六	九九・四六	九九・四六	一二二・七三	一二二・七三
十三歳	一〇二・〇八	一〇二・〇八	一〇二・〇八	一二二・九一	一二二・九一

平均	十四歳		十五歳		十六歳	
	女	男	女	男	女	男
〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇
一〇四・三二四	一九九・三二四	一〇九・三二四	一〇九・三二四	一九九・三二四	一〇九・三二四	一九九・三二四
一〇四・五九〇	一〇四・五九〇	一〇四・五九〇	一〇四・五九〇	一〇四・五九〇	一〇四・五九〇	一〇四・五九〇
一〇四・二一〇	一〇四・二一〇	一〇四・二一〇	一〇四・二一〇	一〇四・二一〇	一〇四・二一〇	一〇四・二一〇
一一二・二四五	一一二・二四五	一一二・二四五	一一二・二四五	一一二・二四五	一一二・二四五	一一二・二四五
一一二・九一六	一一二・九一六	一一二・九一六	一一二・九一六	一一二・九一六	一一二・九一六	一一二・九一六

以上の二表によりて東京市兒童の體重は、一般に劣等なるを知る。勿論全國・大阪・京都の兒童に比すれば年によりて優れることあれども、劣等なること多し、殊に京都市の兒童に於て著しく劣れり又大阪・京都に比すれば男子は何れも劣り、殊に女子に於て其の劣れる程度大なり。何故に東京市の女子が如斯體重に於て劣るやの理由は明ならざるも、十三四歳以後に於て特に顯著なるは東京市の小學校女兒は他地方に比してより多く尋常六學年を終ふれば高等女學校に入學し、高等小學校に入る者少なく、而して高等小學校に入學する者は全體を通じて身體の發育劣れる故とも考へらる。又東京市の女子は青春期運きを以て随つて身體の發育も亦遅き故なりと思惟せらる。然れども東京の男女兒童は、身長大なるにかゝはらず、肥え方に於て少なく、換言せば割合に細長き體格なるは明々白々の事實なり。殊に東京の貴族或は上流社會の子弟の多く入學する學

校の生徒例へば學習院若くは高等師範學校附屬の生徒等が特に其の體格の纖弱なるは、吾人日々に觀察する事實なり。

(試みに東京市の兒童を外國の兒童に比すれば、身長に於ける差よりも體重の差甚しきこと一目して知り得可し。即ち身長に於て平均百に對する百七・八位なるにも拘はらず、體重に於ては百に對する百二十以上となり居れり。外國兒童は殊に青春期に入りて急激の發達をなし、體重増加し、年々男女とも一貫目以上を増加せるを見る。東京市其の他我國の兒童も亦時には一貫目以上増加する年もあるれど、それは甚だ少し。

(3) 胸圍——以上身長・體重の二に就きて比較をなせり。何れに於ても東京市の兒童は發育優良ならず、而して胸圍も亦非常に劣等なる位置にあることを知るべし。この胸圍に就きては都會の兒童は全國兒童平均よりも明かに劣れり。是れ筋骨纖弱なるに由る。日陰に育つ植物は葉色綠色ならず、白黄色にして如何にも弱さうに、如何にも、かばそきは何人も知る所なれど、都會の兒童は恰もその如く、丈け高くして筋骨纖細・肉づき悪しく、顔色亦蒼白を呈するもの多きは、明かなる事實なり。左表は正に此の間の事例を明示するものと云ふべし。

七歳	東京市		全國	大阪市		京都市		漢堡市	
	女	男		女	男	女	男	女	男
一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七	一・七
一・六七八	一・六七八	一・六七八	一・六七八	一・六七八	一・六七八	一・六七八	一・六七八	一・六七八	一・六七八
一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八
一・六九七	一・六九七	一・六九七	一・六九七	一・六九七	一・六九七	一・六九七	一・六九七	一・六九七	一・六九七
一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八	一・七七八
一・八八九	一・八八九	一・八八九	一・八八九	一・八八九	一・八八九	一・八八九	一・八八九	一・八八九	一・八八九

八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八
歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四
〇〇 七・八	〇〇 五・六	二二 三・四	二二 二・六	二二 〇・八	二二 二・二	二二 一・六	二二 三・〇	二二 九・二	二二 八・二	二二 七・二
九〇 七・八	〇一 六・八	二二 〇・二	二二 一・六	二二 一・八	二二 〇・八	二二 〇・二	二二 九・三	二二 八・七	二二 九・三	二二 七・四
〇〇 七・八	〇〇 七・七	二二 四・三	二二 〇・二	二二 二・六	二二 一・七	二二 一・八	二二 〇・七	二二 九・〇	二二 九・四	二二 八・五
〇〇 七・八	〇〇 七・七	二二 四・三	二二 〇・二	二二 二・六	二二 一・七	二二 一・八	二二 〇・七	二二 九・〇	二二 九・四	二二 八・五

更に之を東京市兒童の胸圍を一〇〇として、他の割合を求むれば次の如くなり。

八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八
歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二	二二 二二 二二
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四
九〇 七・八	〇一 一・七	二二 三・四	二二 三・三	二二 二・五	二二 二・五	二二 二・七	二二 一・四	二二 九・六	二二 九・八	二二 八・四

平	十	十	十	十	十	十	九
均	六	五	四	三	二	一	歳
女	男	女	男	女	男	女	男
〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 二・一 〇・三	〇〇 二・五 一・六	〇〇 二・三 一・三	〇〇 二・七 一・四	〇〇 二・八 一・五	〇〇 二・九 一・五	〇〇 二・五 〇・八	〇〇 二・二 〇・二
〇〇 七・五 一・四	〇〇 七・二 一・六	〇〇 九・八 一・二	〇〇 九・五 一・三	〇〇 九・五 一・二	〇〇 五・〇 〇・〇	〇〇 六・四 二・七	〇〇 五・五 〇・五
〇〇 一・二 二・五	〇〇 一・四 〇・〇	〇〇 一・〇 〇・九	〇〇 一・〇 〇・九	〇〇 一・〇 〇・九	〇〇 一・〇 〇・九	〇〇 一・〇 〇・九	〇〇 一・〇 〇・九
〇〇 八・六 六・九	〇〇 八・五 六・九	〇〇 九・八 六・三	〇〇 八・六 五・五	〇〇 八・五 五・〇	〇〇 七・六 五・三	〇〇 六・八 二・〇	〇〇 七・七 七・七

以上の表によりて直に東京市の兒童の胸圍は、何れの土地の夫にも劣れるを見る。又之によりて吾人が先きに述べし都會の兒童は纖弱にして背の高き割合に體重及び胸圍に於て全國の兒童よりも劣れることを明瞭に知り得たり。遮莫都會の惡影響は既に分明なり。兒童の衛生を説き學校衛生の目的を達せんと企圖するものは、先づ此等幾萬の都會兒童を現状より救ふに努力せざる可からず。

附錄

		(校名) 學生生徒身體檢查統計表 (男女) (明治 年四月檢查)										
年 齡		何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年
身 長	總 長											
	最 大											
	最 小											
	平 均											
體 重	總 重											
	最 大											
	最 小											
	平 均											
胸 圍	常 時	總長										
		最大										
		最小										
		平均										
盈 虛 / 差	總長											
	最大											
	最小											
	平均											
脊 柱	正											
	左 臂	強										
		中										
		弱										
	右 臂	強										
		中										
		弱										
	前 屈	強										
		中										
		弱										
	後 屈	強										
		中										
弱												

附錄第一表 (其一) (省一三號明四五) (省一號表中改正)

學校衛生終

體 格	強																			
	中																			
	弱																			
視 眼	兩 眼	正視																		
		遠視																		
		近視																		
力 眼	左 眼	正視																		
		遠視																		
		近視																		
眼 疾	右 眼	正視																		
		遠視																		
		近視																		
眼 疾	トヲホーム																			
	其ノ他																			
聽 力	障害アル者																			
耳 疾																				
齒 牙	齲齒アル者																			
疾 病																				
檢 査 人 員																				
備 考																				

附 録 第 二 表 (其 一) 學 生 生 徒 及 兒 童 身 長 體 重 胸 圍 表 (自 明 治 三 十 三 年 十 七 箇 年 間 平 均) 文 部 大 臣 官 房 文 書 課

年 齡	身 長		體 重		胸 圍 (常 時)		胸 圍 (印ハ 身 長 二 分 ノ 一)	檢 査 人 員 累 計
	男	女	男	女	男	女		
七 歲	112.7	108.6	11.3	10.3	64.3	62.3	1	
八 歲	118.2	114.1	14.0	13.0	68.0	66.0	1	
九 歲	123.7	119.6	16.7	15.7	71.7	69.7	1	
十 歲	129.2	125.1	19.4	18.4	75.4	73.4	1	
十一 歲	134.7	130.6	22.1	21.1	79.1	77.1	1	
十二 歲	140.2	136.1	24.8	23.8	82.8	80.8	1	
十三 歲	145.7	141.6	27.5	26.5	86.5	84.5	1	
十四 歲	151.2	147.1	30.2	29.2	90.2	88.2	1	
十五 歲	156.7	152.6	32.9	31.9	93.9	91.9	1	
十六 歲	162.2	158.1	35.6	34.6	97.6	95.6	1	
十七 歲	167.7	163.6	38.3	37.3	101.3	99.3	1	
十八 歲	173.2	169.1	41.0	40.0	105.0	103.0	1	
十九 歲	178.7	174.6	43.7	42.7	108.7	106.7	1	
二十 歲	184.2	180.1	46.4	45.4	112.4	110.4	1	
二十一 歲	189.7	185.6	49.1	48.1	116.1	114.1	1	
二十二 歲	195.2	191.1	51.8	50.8	119.8	117.8	1	
二十三 歲	200.7	196.6	54.5	53.5	123.5	121.5	1	
二十四 歲	206.2	202.1	57.2	56.2	127.2	125.2	1	
二十五 歲	211.7	207.6	59.9	58.9	130.9	128.9	1	

本表ニ於テ七歳ト稱スルハ六歳一日以上滿七歳マテヲ指スモノトス以下各年齡之ニ準ス○男女ノ差ノ欄(+)印ハ女子カ男子ニ優レルヲ示シ附録ナキハ男子ガ女子ニ優レルモノナリ○(一)歳間ノ差ノ欄(-)印ハ身長二分ノ一ト胸圍トノ差(-)印ハ身長二分ノ一ヨリ胸圍ノ小ナルモノヲ示シ附録ナキハ胸圍ノ大ナルモノナリ○二十六歳以上ハ檢査人員少ナキヲ以テ之ヲ省ク

(其二) 學生生徒及兒童身長平均累年比較

Table with 15 columns for age (年別) from 7 to 25 and 3 rows for gender (性別) - 女 (Female), 男 (Male), and 平均 (Average). It contains numerical data for average height in centimeters for various years from Meiji 40 to Taisho 5.

(其三) 學生生徒及兒童體重平均累年比較

Table with 15 columns for age (年別) from 7 to 25 and 3 rows for gender (性別) - 女 (Female), 男 (Male), and 平均 (Average). It contains numerical data for average weight in kilograms for various years from Meiji 40 to Taisho 5.

(其四) 學生生徒及兒童胸圍平均累年比較

Table showing chest circumference data for students and children, categorized by gender (男/女) and age (七歲 to 十五歲). The table includes columns for '平均' (Average) and '均' (Mean) values across various years from Meiji 33 to Taisho 5.

附錄第三表 文部省直轄學校學生々徒脊柱體格視力疾病百分比累年比較 (自明治三十三年至大正五年十七年間平均) (其一)

Table showing the percentage of spinal and physical conditions and vision diseases among students in government-run schools. The table is organized by gender (男/女) and year (明治三十三年 to 大正五年), with columns for '平均' (Average) and '均' (Mean) values.

文部省直轄學校學生々徒脊柱體格視力疾病百分比例累年比較 (自明治三十九年十七ヶ年間平均) (其二)

平 均	性 別											
	女						男					
年 度	脊 柱						視 力					
	正視	遠視	近視	其他	弱視	其他	正視	遠視	近視	其他	弱視	其他
明治三十三年度	65.1	31.2	2.7	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十四年度	69.7	26.6	0.3	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十五年度	72.2	22.5	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十六年度	78.8	18.1	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十七年度	77.5	18.1	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十八年度	81.9	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十九年度	82.3	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十年	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十一年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十二年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十三年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十四年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
大正元年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
平 均	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0

備考 本表中脊柱ノ欄並ニ視力欄ニ於テ百ニ滿タザルハ脊柱欄ニハ無風者視力欄ニハ失明者アルニ依ル 本表中ニ計入セザル學校ハ直轄學校中東京盲學校並ニ東京聾啞學校及名高等師範學校附屬小學校ハ省ク

文部省直轄學校學生々徒脊柱體格視力疾病百分比例累年比較 (自明治三十三年十七ヶ年間平均) (其三)

平 均	性 別											
	女						男					
年 度	脊 柱						視 力					
	正視	遠視	近視	其他	弱視	其他	正視	遠視	近視	其他	弱視	其他
明治三十三年度	65.1	31.2	2.7	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十四年度	69.7	26.6	0.3	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十五年度	72.2	22.5	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十六年度	78.8	18.1	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十七年度	77.5	18.1	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十八年度	81.9	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 三十九年度	82.3	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十年	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十一年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十二年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十三年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
同 四十四年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
大正元年度	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0
平 均	82.7	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	81.9	11.8	3.3	0.0	0.0	0.0

公立私立諸學校生徒及兒童脊柱體格視力疾患百分比例累年比較 (自明治三十三年至大正五年十七ヶ年間平均) (其二)

Table showing spine, physique, and vision data for female students from Meiji 33 to Taisho 5. Columns include year, sex, spine inspection (person count, posture), physique (strength, etc.), and vision (left/right eyes, distance/near vision).

公立私立諸學校生徒及兒童脊柱體格視力疾患百分比例累年比較 (自明治三十三年至大正五年十七ヶ年間平均) (其三)

Table showing spine, physique, and vision data for male students from Meiji 33 to Taisho 5. Columns include year, sex, spine inspection (person count, posture), physique (strength, etc.), and vision (left/right eyes, distance/near vision).

公立私立諸學校生徒及兒童脊柱體格視力疾患百分比例累年比較 (自明治三十三年至大正五年十七ヶ年間平均) (其四)

年 度	眼		其他		聽力		耳疾		齒齦		腺病		營養		貧血		脚氣		肺結核		其他		咽喉病		鼻疾		頭痛		衄血		神經衰弱		傳染病		皮膚病		
	明 治 三 十 三 年 度	同 三 十 四 年 度	同 三 十 五 年 度	同 三 十 六 年 度	同 三 十 七 年 度	同 三 十 八 年 度	同 三 十 九 年 度	同 四 十 年 度	同 四 十 一 年 度	同 四 十 二 年 度	同 四 十 三 年 度	同 四 十 四 年 度	同 四 十 五 年 度	同 四 十 六 年 度	同 四 十 七 年 度	同 四 十 八 年 度	同 四 十 九 年 度	同 五 十 年 度	同 五 十 一 年 度	同 五 十 二 年 度	同 五 十 三 年 度	同 五 十 四 年 度	同 五 十 五 年 度	同 五 十 六 年 度	同 五 十 七 年 度	同 五 十 八 年 度	同 五 十 九 年 度	同 六 十 年 度	同 六 十 一 年 度	同 六 十 二 年 度	同 六 十 三 年 度	同 六 十 四 年 度	同 六 十 五 年 度				
平 均	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

備考 本表中脊柱ノ體格ニ視力欄ニ於テハニ滿タザルハ脊柱ニ於テハ兼屬者視力欄ニ於テハ失明者アルニ依ル

附錄第五表 師範學校生徒患者數治療日數無病生徒數等 (自大正元年至五年五ヶ年間) (其二)

校 名	年 度	一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日		一學年開日				
		延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員	延在 校生徒 人員					
東京高等師範學校	大正元年度	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

師範學校生徒患者數治療日數無病生徒數等 (自大正元年至五年五ヶ年間) (其二)

Table showing student health statistics for normal schools (師範學校) from Daisho 1 to 5. The table is organized into columns for school name (校名), average (平均), and various years (大正元年度 to 大正五年度). Rows include categories like '全體' (Overall), '府縣師範' (Prefectural Normal School), '學校(女)' (School (Female)), and '合計' (Total). Health categories include '一學年間に在校生徒延人員', '一學年間に患者延人員', '一學年間に患者數', '平均一日在校生徒數', '平均一日患者數', '在校生徒百人一日患者數', '患者一人平均治療日數', '一學年間に病生徒數', and '平均一日在校生徒百人無病生徒數'.

附錄第六表 師範學校生徒病類別百分比

(自大正元年至五年五ヶ年間) (其一)

Table showing the percentage distribution of diseases among students in normal schools (師範學校) from Daisho 1 to 5. The table is organized into columns for school name (校名), average (平均), and various years (大正元年度 to 大正五年度). Rows include categories like '奈良女子高等師範學校', '東京女子高等師範學校', and '廣島高等師範學校'. Disease categories include '全身病', '神經系病', '呼吸器病', '血行器病', '消化器病', '泌尿器及生殖器病', '眼病', '耳病', '外被病', '運動器病', and '外傷及慮'.

師範學校生徒病類別百分比例

(自大正元年至同五年五ヶ年間) (其二)

校名	年 度	全 身 病	神 經 系 病	呼 吸 器 病	血 行 器 病	消 化 器 病	尿 尿 器 及 生 殖 器 病	眼 病	耳 病	外 被 病	運 動 器 病	外 傷 及 不 適
府縣師範學校(男) 生徒	大正元年度	三二六	八二	一九六	〇六	二六七	〇七	七二	一七	七一	〇九	三二
	同 二 年 度	三二七	八三	一九九	〇六	二五五	〇七	七五	一七	六三	一〇	三二
	同 三 年 度	三二三	八〇	一九八	〇六	二五五	〇六	七四	一六	八〇	一〇	三二
	同 四 年 度	三七八	七三	一九四	〇四	二三六	〇六	七四	一六	六七	〇九	三二
	同 五 年 度	三五三	七六	一八三	〇五	二四一	〇七	七三	一六	七八	〇九	三二
	平 均	三三七	七八	一九三	〇五	二六二	〇七	七三	一八	七一	一三	三二
府縣師範學校(女) 生徒	大正元年度	一八五	七七	二二五	〇八	二二二	〇九	九七	一七	七九	一三	一八
	同 二 年 度	三三〇	七九	二〇七	〇八	二七六	〇八	九九	一六	六二	〇五	二一
	同 三 年 度	三三三	六三	一八六	〇八	二九一	一三	九九	一六	六二	〇七	一八
	同 四 年 度	三七一	五九	一八一	〇五	二七八	一三	九九	一三	六一	〇六	一七
	同 五 年 度	二二二	六九	二二四	一三	二七一	一八	一二六	一三	六一	〇六	一八
	平 均	二二八	六九	二〇二	〇八	二六〇	一三	一〇九	一五	六七	〇七	一八
合 計	大正元年度	二二七	八二	一九七	〇六	二六五	〇八	七五	一六	七五	〇九	三二
	同 二 年 度	二四〇	八一	一九八	〇五	二六三	〇六	七五	一六	六〇	〇八	三二
	同 三 年 度	二三〇	七五	一九四	〇六	二八八	〇六	七六	一五	六〇	〇八	三二
	同 四 年 度	二七九	六八	一九三	〇四	二八九	〇八	七三	一五	六三	〇八	三二
	同 五 年 度	二四五	七四	一九〇	〇六	二四九	〇九	七八	一七	六三	〇八	三二
	平 均	二四〇	七六	一九三	〇五	二六八	〇八	七五	一七	六九	一〇	三二

附錄第七表 師範學校生徒轉歸百分比例

(自大正元年至同五年五ヶ年間) (其一)

校名	年 度	治 癒	死 亡	病 氣 退 學	事 故	後 遺					
							平 均	同 一 年 度	同 二 年 度	同 三 年 度	同 四 年 度
東京高等師範學校	大正元年度	九三・〇	〇・九	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 二 年 度	九三・七	〇・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 三 年 度	九四・三	〇・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 四 年 度	九五・四	〇・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 五 年 度	九六・四	〇・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	平 均	九三・三	〇・八	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
廣島高等師範學校	大正元年度	九八・〇	〇・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 二 年 度	九七・八	〇・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 三 年 度	九八・七	〇・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 四 年 度	九八・〇	〇・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 五 年 度	九八・九	〇・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	平 均	九八・二	〇・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
東京女子高等師範學校	大正元年度	九三・七	〇・四	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 二 年 度	九三・九	〇・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 三 年 度	九三・三	〇・四	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 四 年 度	九三・三	〇・四	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 五 年 度	九三・四	〇・四	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	平 均	九三・二	〇・四	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
奈良女子高等師範學校	大正元年度	九〇・九	一・三	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 二 年 度	九〇・三	一・二	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 三 年 度	八二・二	二・六	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 四 年 度	八四・三	一・八	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	同 五 年 度	八八・七	一・二	〇・〇	〇・〇	〇・〇					
	平 均	八六・五	一・五	〇・〇	〇・〇	〇・〇					

師範學校生徒・轉歸百分比例

(自大正元年至五年五ヶ年間) (其二)

校名	年 度	治 療		死 亡	病 氣 退 學	事 故	後 遺
		療	死				
府縣師範 學校(男)	大正元年度	九・九七	〇・七七	〇・九	一・六	〇・四	一・六
	同二年度	九・八五	〇・九	一・三	一・三	〇・八	一・四
	同三年度	九・四六	一・〇	一・〇	一・三	〇・八	一・四
	同四年度	九・二五	一・〇	一・〇	一・三	〇・八	一・四
	同五年度	九・四	一・〇	一・〇	一・三	〇・八	一・四
平均	均	九・六二	一・〇二	一・〇	一・三	〇・八	一・四
府縣師範 學校(女)	大正元年度	九・二	一・一六	〇・八	一・六	〇・七	一・九
	同二年度	九・三	〇・九	〇・九	一・六	〇・七	一・九
	同三年度	九・四	〇・八	〇・八	一・六	〇・七	一・九
	同四年度	九・五	〇・七	〇・八	一・六	〇・七	一・九
	同五年度	九・六	〇・六	〇・八	一・六	〇・七	一・九
平均	均	九・四二	〇・八二	〇・八	一・五	〇・七	一・九
合 計	大正元年度	九・八	〇・八	〇・八	一・五	〇・七	一・八
	同二年度	九・七	〇・八	〇・八	一・五	〇・七	一・八
	同三年度	九・六	〇・八	〇・八	一・五	〇・七	一・八
	同四年度	九・五	〇・八	〇・八	一・五	〇・七	一・八
	同五年度	九・四	〇・八	〇・八	一・五	〇・七	一・八
平均	均	九・六	〇・八	〇・八	一・五	〇・七	一・八

附録第八表 (其一、甲) 公立私立諸學校生徒及兒童疾病者百分比例細例(男) 大正五年度文部省年報

種 別	檢査人員	百 人 中							傳 染 性 皮 膚 病 例
		眼 ト ラ ホ ム	其 他	聽力障害	耳 疾	腫 瘍 ア ル 者	咽 喉 病 者	鼻 疾	
小 學 校	一、八、二四	一・五	二・八	一・五	二・四	四・六	一・四	〇・七	一・九
中 學 校	一、三、四九	七・三	三・八	一・五	一・七	三・七	一・七	〇・三	〇・三
師 範 學 校	一、六、二六	五・六	四・五	〇・六	一・七	二・五	一・三	〇・六	〇・三
實 業 學 校	五、七五	七・九	二・八	一・七	〇・九	三・九	一・三	〇・六	〇・三
專 門 學 校	二、九	六・三	三・六	〇・六	三・七	四・八	〇・八	〇・二	〇・六
總 計	一、七、一九九	一・四	二・六	一・四	二・〇	四・〇	一・四	〇・四	一・三
大正四十五年度	同元年度	三・九	一・四	一・四	二・三	四・五	一・〇	〇・七	一・八
	同二年度	九・三	一・五	一・三	二・五	四・七	一・三	〇・六	一・五
	同三年度	九・三	一・五	一・三	二・五	四・七	一・三	〇・六	一・五
	同四年度	一、二、七九	一・五	一・三	二・五	四・七	一・三	〇・六	一・五
	同五年度	一、三、七六	一・四	二・三	一・四	二・四	四・〇	一・三	〇・五

小學校ニ於テハ聽力ノ檢査ヲ一般ニ施行セズ隨テ總計ニ於テモ小學校ニ係ル聽力障害者ヲ計入セズ次表亦同ジ
脚氣、呼吸器疾患、神經衰弱、其他比較的少數ナルモノハ之ヲ省略セリ次表亦同ジ

(其一、乙) 公立私立諸學校生徒及兒童疾病者百分比細別(女) 大正五年度文部省年報

種 別	檢査人員	百 人 比 例				
		眼 トヲホム	疾 其 他	聽力障害 耳	ア 病 者	ル 疾 者
小 學 校	九六九・〇〇	一・八三	三・三二	一・三三	一・八四	四・三九
高 等 女 學 校	七八・五四	七・四二	三・六九	一・二二	四・三九	〇・三六
師 範 學 校	七四・四二	五・三三	三・八二	〇・六	三・〇七	〇・三三
專 門 學 校	一・九	六・七二	五・八八	一・二五	四・三九	〇・〇七
總 計	一、〇六、〇四八	一・七四	三・二九	一・二七	一・六六	〇・三二
大 正 四 十 五 年 度	三、四九、一六六	一・五九	四・〇四	〇・九九	四・一六	〇・六七
同 二 年 度	七、六、四五四	一・七九	三・七九	一・二七	四・八二	〇・五〇
同 三 年 度	一、〇〇、八〇〇	一・七九	三・五二	一・〇〇	四・六	〇・五〇
同 四 年 度	一、〇三、八八五	一・七〇	三・三七	〇・九	四・四	〇・四五
七 年 齡	二、七二、三三	二、九一四	五、九二五	六、六九	八、三〇	三、四九
檢査人員	二九、一四九	五、九二五	六、六九	八、三〇	三、四九	三、四九

(其二、甲) 公立私立小學校兒童疾病者年齡別(男) 大正五年度文部省年報

種 別	檢査人員	百 人 比 例				
		眼 トヲホム	疾 其 他	聽力障害 耳	ア 病 者	ル 疾 者
八 年 年	一七、四四	二、三三	五、四七	五、三七	八、五八	三、四九
九 年 年	一、八、八三	二、八〇	五、一七	四、一六	八、五三	二、四九
十 年 年	二、六、四七	二、六〇	四、四四	三、七三	七、九三	二、五七
十 一 年 年	二、四、四七	三、三三	三、九六	三、〇七	六、二二	二、五七
十 二 年 年	二、四〇、五三	三、二一	三、七四	三、〇七	六、三二	二、五七
十 三 年 年	二、二、〇五	二、四七	三、八四	二、八四	六、二二	二、五七
十 四 年 年	七、九、七七	二、二六	一、九五	一、九	八、〇	二、〇
十 五 年 年	一、五、九七	二、六六	二、二	二、一	八、〇	二、〇
十 六 年 年	一、五、三	三、八	二、	二、	八、〇	二、〇
總 計	一、八、二、四四	二、七六	五、四七	五、三七	八、五八	二、四九
大 正 四 十 五 年 度	三、七、一、七	三、四七	六、一七	五、九二	九、三三	二、五七
同 二 年 度	七、七、七	三、二九	五、一七	四、一六	八、五三	二、五七
同 三 年 度	一、一〇、八三	二、八〇	四、四四	三、七三	七、九三	二、五七
同 四 年 度	一、一四、八〇	二、六〇	四、四四	三、七三	七、九三	二、五七
七 年 齡	二、四、八二	二、九一四	五、九二五	六、六九	八、三〇	三、四九
檢査人員	二九、一四九	五、九二五	六、六九	八、三〇	三、四九	三、四九

(其二、乙) 公立私立小學校兒童疾病者年齡別(女) 大正五年度文部省年報

種 別	檢査人員	百 人 比 例				
		眼 トヲホム	疾 其 他	聽力障害 耳	ア 病 者	ル 疾 者
八 年 年	一七、四四	二、三三	五、四七	五、三七	八、五八	三、四九
九 年 年	一、八、八三	二、八〇	五、一七	四、一六	八、五三	二、四九
十 年 年	二、六、四七	二、六〇	四、四四	三、七三	七、九三	二、五七
十 一 年 年	二、四、四七	三、三三	三、九六	三、〇七	六、二二	二、五七
十 二 年 年	二、四〇、五三	三、二一	三、七四	三、〇七	六、三二	二、五七
十 三 年 年	二、二、〇五	二、四七	三、八四	二、八四	六、二二	二、五七
十 四 年 年	七、九、七七	二、二六	一、九五	一、九	八、〇	二、〇
十 五 年 年	一、五、九七	二、六六	二、二	二、一	八、〇	二、〇
十 六 年 年	一、五、三	三、八	二、	二、	八、〇	二、〇
總 計	一、八、二、四四	二、七六	五、四七	五、三七	八、五八	二、四九
大 正 四 十 五 年 度	三、七、一、七	三、四七	六、一七	五、九二	九、三三	二、五七
同 二 年 度	七、七、七	三、二九	五、一七	四、一六	八、五三	二、五七
同 三 年 度	一、一〇、八三	二、八〇	四、四四	三、七三	七、九三	二、五七
同 四 年 度	一、一四、八〇	二、六〇	四、四四	三、七三	七、九三	二、五七
七 年 齡	二、四、八二	二、九一四	五、九二五	六、六九	八、三〇	三、四九
檢査人員	二九、一四九	五、九二五	六、六九	八、三〇	三、四九	三、四九

年 齡	檢 査 人 員	疾 病															
		眼 トラホーム	其 他	聽力障害	耳 疾	ア 臍菌アノ者	咽 喉 病	鼻 疾	傳 染 性 皮 膚 病	ア 臍菌アノ者	咽 喉 病	鼻 疾	傳 染 性 皮 膚 病				
十 年	四元	三	元														
十 一 年	一、〇七	六	九														
十 二 年	一、八六	七	七														
十 三 年	一、七〇	九	七														
十 四 年	一、七〇	五	七														
十 五 年	一、六五	七	七														
十 六 年	一、七〇	七	七														
十 七 年	一、七〇	七	七														
十 八 年	一、八六	七	七														
十 九 年	一、八六	八	七														
二十 年	二、九	四	八														
總 計	七、四七	三三	二八	五	九	三	二	三	二	三	一	二	一	二	一	一	二
大 正 四 十 五 年 度	七、四三	四六	三九	七	七	三	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
同 三 年 度	七、六六	四九	三九	七	八	三	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
同 二 年 度	七、三六	五〇	三九	八	九	三	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
同 一 年 度	七、七〇	四七	四〇	八	九	三	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
同 四 年 度	七、五九	四〇	三六	五	八	三	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二

(其六) 公立私立實業學校生徒疾病者年齢別(男)

大正五年度文部省年報

年 齡	檢 査 人 員	疾 病															
		眼 トラホーム	其 他	聽力障害	耳 疾	ア 臍菌アノ者	咽 喉 病	鼻 疾	傳 染 性 皮 膚 病	ア 臍菌アノ者	咽 喉 病	鼻 疾	傳 染 性 皮 膚 病				
十 年	二、四八	三三	五	五	二	三	二	三	一	二	一	二	一	二	一	一	二
十 一 年	六、九七	三七	三	二	三	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
十 二 年	八、八六	七二	三	二	三	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
十 三 年	八、八六	七二	三	二	三	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
十 四 年	八、八六	七二	三	二	三	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
十 五 年	六、九七	三二	三	二	三	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
十 六 年	八、八六	七二	三	二	三	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
十 七 年	八、八六	七二	三	二	三	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
十 八 年	八、八六	七二	三	二	三	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
十 九 年	二、六三	二七	二	一	二	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
二十 年	二、九	四	二	一	二	二	二	二	二	二	一	二	一	二	一	一	二
總 計	二、八七	一〇三	五	一	五	三	二	三	二	三	一	二	一	二	一	一	二
大 正 四 十 五 年 度	一、八七	一八	三														
同 三 年 度	三、〇八	三三	五														
同 二 年 度	三、〇八	三三	五														
同 一 年 度	三、四七	三九	五														
同 四 年 度	三、七〇	四〇	五														

(其七、甲) 公立私立専門學校生徒疾病者年齢別(男)

大正五年度文部省年報

索引

い、ゐ

- 井 二〇
- 井戸の位置 二一
- 衣服用金網籠 三七
- 衣装室 三五
- 英吉利の戶外學校 四〇三
- 英吉利の學校衛生監督 四三八
- 一學級の児童數 一五二
- 一般照明 三
- 一般照明法 七五
- 一般的设计ミ建築 五
- 一校一室制校舎 四〇
- 入口 二八
- 入口の戸 三〇
- 飲料水 一九
- 飲料水の判決 二二
- 飲用噴泉 二四
- 陰翳 七一
- 陰翳の研究 七四
- 飲酒取締訓令 四二七

業

引

- 四二七
- 七六
- 七四
- 七一
- 二四
- 二二
- 一九
- 三〇
- 二八
- 四〇
- 五
- 七五
- 三
- 一五二
- 四三八
- 四〇三
- 三五
- 三七
- 二一
- 二〇

は、は、は

- 配燈法 七七
- 發育ミ貧富ミの關係 六〇二
- 發情期關係 六〇一
- 放課時間 三〇〇
- 放課時間の運動 三〇一
- 放課時間の振り當て 三〇四
- 防火規定 二六六
- 半間接照明法 七四、八九、九〇
- 半身長對胸圍 六〇六
- 半身長對胸圍比較表 六一八
- 半身長に對する胸圍比較表 六一八
- 反射鏡 八六、八七、一〇〇、一〇一
- 離尺 一六三
- パビリオン式 一一
- バラック式校舎 一六九
- パラヂン式机腰掛 一六九
- 日本文字ミ歐文字の比較 三二三
- 二重窓 六四
- 二重障子 一三四
- 日常清潔法 二六〇
- 石灰セメント 一五九

入射角

ほ、ほ、ほ

- 哺乳兒の體重 五九九
- 哺乳兒の身長 五九九
- 哺乳兒の頭圍 五九九
- 哺乳兒の胸圍 五九九
- 北側光 一八
- 本邦小學校用机腰掛寸法表 二〇二
- ボレーボール 二三六
- ボック式机腰掛 一六五
- ホムブ 二一
- 平均入射角 四七
- 平均燭力 八四
- 片側光線 六〇
- 便所 二四五
- 便所の改良 二五一
- ベルリン小學校式机腰掛 一七二
- ベタンコ板 二三六
- ヘフネル燈 四五
- ヘンニヒの反射器 七〇
- と、ど 四〇〇
- 獨逸の戶外學校 四〇〇

徒歩通學距離	九
都會兒童の身體發育	六二一
都會兒童の體重	六二四
都會兒童の身長	六二一
都會兒童の胸圍	六二七
都會學童齲齒患者表	五九六、五九七
都會齲齒關係	五九二
取附位置	九八
東京市小學校運動場	二二七
頭光	六五
燈用瓦斯	八〇
燈用石油	七八
道廳府縣學校醫會設置狀況	四六一
特殊學校	二七三
讀書機	三一四
讀書に關する衛生	三〇九
跳び穴	二二六
トルネルの光度計	五五
トラホーム	五六九
トラホーム豫防部見	五七二
トラホーム豫防答申書	五七〇
ち	
中廊下	三三三
中廊下の學校	一八
中等以上の學校の衛生教授	四二四
中等發育	六〇四
中央燧房法	一四八
中學生徒の試験ニ體重	三三三
懲罰	三六六
直立體ニ傾斜體	三三三
直接照明法	七四、七六
直接照明器具の間隔	一〇〇
り	
理想の地表	一三二
利用能率	八六
淋巴腺肥大の狀況	五八五
兩手利き	三二九
良照明	八五
リノレウム	一六〇
る	
ルーメン	八四、八五
を、お	
歐米現時の學校用机腰掛	二〇二
大阪市小學校運動場	二二八
大阪市教員の身體檢査成績	五三三
屋内體操場	四一、四二、三二
屋内運動場の照明具取附實例	一〇七
か、が	
温湯燧房法	一四九
通場	三三二
家庭の讀み物	三二六
家事	三二八
家事科實習室	二四三
夏季休暇	三七一
夏季休業團	三七六
加距離	一六三
下肢長	六〇一
瓦斯燈	八〇
瓦斯燧房法	一四七
瓦斯ストーブ煙突	一四八
書き方に關する衛生	三二〇
書く文字の大きさ	三二〇
階段の幅	三一
開角	四六
壁	一五八
壁の色	一五九
片廊下	三三
神戸市小學校運動場	二二八
行歩期	五九八
學科の順序	三〇五
學科に關する衛生	三〇九

學童の割合	一一
學齡	二七七
學年試驗が體重に及ぼす影響	三三三
學校の附近	一〇
學校の前方	二四四
學校醫	四三〇
學校醫の資格	四四一
學校醫の法律上の性質	四四八
學校醫資格・擔任學校・擔任生徒又は兒童別表	四四八
兒童別表	四五一
學校醫職務規定の改正	四五七
學校醫職務規程	四四二
學校醫設置規定	四四〇
學校醫會	四六一
學校醫會設置狀況表	四五四
學校醫設置反對論	四三一
學校醫設置狀況	四四九
學校醫設置の學校及學校醫表	四五〇
學校醫協議會ミトラホーム豫防答申書	四七〇
學校別視力百分比列表	五七〇
學校看護婦	五四四
學校幼稚園傳染病豫防及消毒方法	四八四
學校掃除に關する通牒	五三七
學校掃除に關する通牒	二六二
學校衛生主事	四五二
學校衛生調査に關する施設	四六〇
學校衛生中央機關	四六五
學校傳染病	五三三
學校齒牙治療所	四六七
學校照明の三要素	七二
學校病	五三三
學校清潔方法	二六〇
學期中の休暇	三七二
學級の定員	二九〇
學生生徒及兒童中等發育表	六一一、六一二
學生生徒及兒童絕對發育表	六一九
學生生徒身體檢査統計表樣式(附)	一、二
學生生徒及兒童身長體重胸圍表(附)	三
學生生徒及兒童身長平均累年比較(附)	四
學生生徒及兒童體重平均累年比較(附)	五
學生生徒及兒童胸圍平均累年比較(附)	六
各種用途に適當なる照明強度	九二
鎌倉の休日頑民	三七六
紙製コップ	二四
乾燥水泳練習	二四三
眼鏡式姿勢矯正器	二一八
間接照明法	七四、七六、七七、七八
間接及び半間接照明器具の間隔	一〇二
ガルトン式カミン	一四七
カルセル油燈	四五
ガレウエルト式机腰掛	一七四
カミン	一四七
よ	
浴室	二五八
浴場	二三八
横窓	六五
た、だ	
煙草	四二七
多透光乳色硝子	九一
田村式井戸	一一
唾壺	一一〇
唾壺取締	一一〇
建て方	二七
體罰	二六七
體操	二七二
體操と遊戯	二七二
體操と疲勞	二七二

掃除に関する訓令	三三四	掃除問題	二六三
掃除月経	三三五	測光法	四五
掃除免除	三三五	ゾンカベンキ	一五九
體重と季節の関係	五九九		
太陽説	一五		
大顔門閉鎖期	五九八		
對比假子	五二		
堅窓	六五		
單臺机腰掛	二〇四		
短時間體操	二九九		
段數	三一		
男女共學	二八二		
暖房法	一四〇		
暖房裝置監督者	一五〇		
零距離	一六三		
列及び字母測定器	三二四		
療病室	二五八		
煉瓦	二三一		
粗麻布	三一		
粗製石油	七八		
掻土器	三〇		
掃除	二五九		
		掃除問題	二六三
		測光法	四五
		ゾンカベンキ	一五九
		机の幅	一〇一
		机腰掛	一六一
		机腰掛寸法表	二〇二
		机腰掛用脚輪	二〇七
		机腰掛用轉子	二〇八
		机腰掛規準計	二一五
		机腰掛決定要件	一六一
		机腰掛決定用身長測定器	二一四
		机腰掛の分類と概評	一六三
		机腰掛に因る障害	二一〇
		机腰掛に對する希望と注意	二〇九
		机腰掛使用の現状	二二二
		尿管	二四九
		年齢と齲齒關係	五九一
		年齢別男女發育差異表	六一三
		廊下	三三
		欄間	六二
		ランプの高さ	七七
		右側窓	六一
		運動場	二二六
		運動場に對する要求	二二九
		運動場の改新	二三〇
		運動場の各臟器に及ぼす效果	二二六
		運動自在卓子	二〇七
		ウキンダンの光度計	五四
		ウキースバーデン制	四三六
		ウエーベルの腔角計	四七
		ウエーベルの光度計	五一
		ウエーベルの新型腔角計	四九
		ウエーテルベルゲ式机腰掛	一七〇
		能率	八六
		ノートブック	三二〇
		齲齒	五七六
		齲齒程度	五八七

齲齒統計	五七七	窓掛の色	六八
齲齒患者と地方的關係	五九一	窓掛の遮光	六九
齲齒と學業成績との關係	五八三	待合室	三〇
齲齒と體格との關係	五八五	萬年小學校の齲齒	五八七
齲齒と年齢關係	五八一、五八八、五九一	マイチンデル氏ストロプ	一四四
靴拭ひ	三〇	マット	三〇
空氣暖房法	一四九		
過勞問題	三六四		
郡學校醫會	四四九		
外套付ストロプ	一四七		
クレオソート油	二七		
クラリアント水盤	三六八		
夜學校	七一		
窓	六二		
窓の位置	六〇		
窓の框	六二		
窓の形	六二		
窓の閉閉	六四		
窓の妻	六五		
窓硝子の日光吸收性	六二		
窓掛	六八		
		窓掛の色	六八
		窓掛の遮光	六九
		待合室	三〇
		萬年小學校の齲齒	五八七
		マイチンデル氏ストロプ	一四四
		マット	三〇
		蹴上げ	三二
		下駄箱	三二
		鯨蠟燭燭	四五
		結核の診斷法	四九〇
		缺陷兒童	二七二
		競技場	二二六
		擊劍及び柔道場	二三八
		縣學校醫會	四五八
		建築材料	二六
		檢力計	三三二
		健體小兒の發育	五九八
		眩惑現象	九〇
		減距離	一六三
		ケルン式机腰掛	一六五
		クノトキシシ	二六八
		吹燭光	八四
		不動零距離の机腰掛	一七四
		不正發育矯正表	五六五
		浮油式尿管	二四九
		吹き通し教室	四一七
		負距離	一六三
		富兒と貧兒との發育比較表	六一六
		富兒と中等發育兒童との發育比較表	六一六
		踏面	六二四
		糞壺	三二
		ブルセル制	二四八
		ブロンシア小學校用机腰掛	四三五
		フレステル氏法	一六四
		フライ式机腰掛	四六
		フライヤーの裝置	一七二
		フートルネル式机腰掛	五〇
		戶外學校	一七四
		戶外學校の食堂	三九八
		戶外學校の浴場	四一五
		戶外學校の校具	四一五
		戶外學校の集會(睡眠室)	四一五
		戶外學校の敷地・校舍・校具	四一一

戸外學校の精神上の影響	四一〇	公立私立諸學校生徒及兒童疾病者百	三六
戸外學校の必要	四一八	分比例細別	二六
戸外學校の教室	四二二	公立私立小學校兒童疾病者年齡	二六一
戸外學校の床	四一六	別	三二七
戸外學校の肉體上の成績	四〇八	公立私立中學校生徒疾病者年齡別	三〇二
戸外學校の寢具	四一六	別	一五八
戸外寄宿舎學校	三九七	公立私立高等女學校生徒疾病者年齡	一五九
小屋建式設計	一一一	別	六五
小屋建式校舎	一一二	公立私立實業學校生徒疾病者年齡別	四四
固定(不動)加(正)距離の机腰掛	一六四	(附)二八	一六
午前二纏めの教授	三〇六	公立私立專門學校生徒疾病者年齡別	四七
午前午後二纏めの教授	三〇五	別	八三
口腔衛生思想普及程度	五七六	公立私立專門學校生徒疾病者年齡別	一八
工程測定器	二七〇	別	九八
校庭地表の手入れ	二二〇	黑板	一一九
校庭諸設備	二二五	コーンの光度計	五六
校舎の向き	一四	英國照明學會要求	六〇
光線反射器	六九	永久齒粒に乳齒吸收不全の状態	五七六
光線の反射	六九	衛生の教授	四二〇
光力的化學法による測光法	五八	衛生監督の沿革	四三五
公立私立諸學校生徒及兒童脊柱體格	九一	エルゴグラフ	二七〇
視力疾病百分比例累年比較	一一四	エマイン塗料	一五九
(附)一一、一二、一三、一四		エラゲム式机腰掛	一七四
		エステジオメトリック、メソット	二七一
		て、で	
		手拭	三六
		手拭分配器	二六
		定期清潔方法	二六一
		調節機性眼精疲勞症	三二七
		調節自在の机腰掛	三〇二
		天井	一五八
		天井の色	一五九
		天窗	六五
		天然採光法	四四
		天窗光度の月別變化	一六
		天窗の計測	四七
		電燈	八三
		電球の大きさ	九八
		田樂長屋	一八
		轉子	一〇九
		テサードボール	一三六
		あ	
		亞米利加の戸外學校	四〇四
		天の橋立の休日殖民	三七七
		案内線	三三六
		アルガンツ燈	八二
		アルコホル	四二六
		アウエル灼熱燈	八二
		アメリカ式窓掛	六八

アスファルト運動場	一一三二	喫煙禁止訓令	四二八
アンチ、ケノトキシン	一一六九	休暇	三七〇
		休暇中の遠足	三八五
		休日殖民	三七五
		休憩時間反對論	三〇三
		給水法	一九
		近視眼	五四一
		近視眼者	七三
		近視眼累年百分比例表	五四八
		近視眼増加の趨勢	五四七
		京都夏期林間學校	三八六
		共用コップ	二四
		共用コップ禁止令	二六
		教育基金令	四六三
		教育に關する業務者死因別	五二八
		教員の肺結核	五二二
		教員の肺結核に因る死亡	五二六
		教員の肺結核死者調査	五二七
		教員の肺結核に關する訓令	五三一
		教員の體格	五二一
		教員の體格種別	四九五
		教員の體格種別決定法	五二一
		教員の年齢と體格	四九四
		教員の受持兒童數	五二一
		教員の在職年數と體格	五二二
		七	
		教員の勤續年數と體格	四九七、五一五
		教員疾病療治料給與準則	四六四
		教員の疾病	五〇〇、五一六、五二二
		教員の身體狀態並に肺結核	四八九
		教員の身體検査總括	五二一
		教員のビルクレー反應	五二二
		教員のビルクレー反應陽性者肺結核	五二二
		教科用圖書の檢定	五三三
		教科用圖書の用紙標準	三二〇
		教科用圖書の印刷標準	三二七
		教科用圖書印刷の法則	三二〇
		教師の衛生	三二四
		教授衛生	四八八
		教室	二六八
		教室設備	四四
		教室の扉	一五一
		教室の大きさ	三四
		教室の大きさ決定要素	一五二
		教室の長さ、幅の比	一五一
		教室の照明具取附實例	一五六
		教室内の最小光量	一〇五
		局部照明	四四
		局部照明法	一一二
		局部的一般照明法	七五
		七	七五

局部的一般照明	一一二	師範學校生徒患者數治療日數	三五三
局部一般の併合照明法	七四	無病生徒數等 (附)一五、一六	三五三
曲管便所	二五六	師範學校生徒疾病類別百分比例 (附)一七、一八	三七〇
キシロリス	一六〇		二九四
ギョーム式机腰掛	一七二	師範學校生徒轉歸百分比例 (附)一九、二〇、二二、二二	六〇一
ゆ		師範學校生徒疾病年輪別(附)二六、二七	二五三
床	一五九	師範學校職員身體檢査成績	三〇〇
床材	一五九	兒童の體重	二二七、三一九
床面積	一五六	兒童の頭圍	二二八
床のコーラタ塗	一六〇	兒童の身長	二一九
床油の塗附	一六一	兒童の胸圍	二二九
油布	一六一	兒童の通學に乗物	三〇〇
油劑塗料	一五九	齒牙檢査(英國)	九六
油式小便器	二四九	齒牙治療所(紐育)	五九八
遊動園木	二四一	齒牙治療院(フオーサイス)	五九九
游泳池	三四三	齒牙無料治療所(シンシナチー)	三〇〇
游泳教授	三四三	齒牙衛生運動(ブリチポート)	二二七
め		齒牙衛生週	二二八
迷燭光	四五	齒科衛生手	二二九
眼の保護	九〇	齒科看護婦	二二九
メルリウス、ラクリマンス	二六	齒科子俱樂部	二二九
メーニ州の便所	二四八	齒科子教練	二二九
し、じ		市學校醫會	二二九

習字	三三二	火鉢	一四二
十五分の休憩	三〇一	疲勞	二六八
敷地	七	避暑保養所	三七七
敷地の廣さ	一三	引違窓	六四
手欄	三二	引替	六九
手工	三二八	貧富別絕對發育比較	六〇九
授業時間中直射光線不用論者	一五	貧富並に中等發育兒童絕對發育比較表	六二〇
授業時間の長短	二九八	貧富並に中等發育兒童の半身長對胸圍比較表	六一七
授業と疾病歩合	三〇八	貧兒中等發育兒童の發育比較表	六一七
身長體重胸圍表(三島博士)	六〇一	標準以下の兒童	六一五
身體發育	五九八	標準燭光	四八六
身體檢査規程	四四四	標準燭燭	四五
身體清潔の監視	二九七	ビルケー氏反應	四九〇
寢具・臥具	二五五	ビルケー氏反應試驗成績	五〇五、五一九
人工照明法の科學的研究	七〇	ビトラリン	一五九
人工照明法上の一般的要求	七一	ビーネー氏體格等位法	四九四
塵埃と遮光	六四	文部省直轄學校學生生徒體格視力	
塵埃と屋内體操場	二二四	疾病百分比例累年比較	
燭屑	二二二	(附)七、八、九、一〇	
浸水後清潔方法	二二二		
昇降口	二九		
蒸氣煖房法	一四八		
照明の強度	七二		
照明の均一	七四		
照明の種類と空氣汚染	七八		
索引			

文字印刷の最大限	三四	脊柱彎曲の形態及其部位	五五五
木材腐朽	二七	脊柱彎曲の年齢及性的觀察	五六一
モーリッツの裝置	四九	洗濯場	二五八
せ、せ		洗面場	三五
正方形の大きさ	九九	全矯正眼鏡	五五一
生徒數	二八九	全所要光量決定に要する係數表	九六
生齒期	五九八	セメント	二二一
製圖室の照明具取附實例	一〇九	す、ず	
性的衛生	四二九	炊場	二五五
正距離	一六三	水平棒	二二六
正視眼者	七三	睡眠時間	二九四
絶対發育	六〇七	水製瓦斯	八三
設計	五	砂箱	一三五
小學兒童齲齒患者表	五九三	滑り臺	一三六
小學兒童齲齒調査報告	五九〇	ストーブ	一四四
小學校の衛生教授	四二四	ストーブ煙道	一四六
小學校教員肺結核病に關する訓令	五三一	スクリーン	一三五
石板	三二〇	スケート	二三八
石油燈	七八		
脊柱彎曲	五五二		
脊柱彎曲検査法	五五九		
脊柱彎曲の部位	五六三		
脊柱彎曲の形態的觀察	五六一		

索引

大正八年二月二十五日印刷
大正八年三月一日發行



著者 古瀬安俊

發行者 鈴木幹太

印刷者 加藤晴吉

印刷所 右同所 正文舎

電話小石川三六五〇番

學校衛生奥附
正價金五圓五拾錢

發行所

東京市本郷區龍岡町三十四番地
電話下谷四一七八・振替東京六三三八

南山堂書



三肆 書 捌 賣三

東京本郷區湯島切通坂町
同 同
本郷區龍岡町
同 同 同 同 同 同 同 同 同
春木町三丁目 春木町三丁目 木富士町

南江堂書店
金原書店
富倉書店
吐鳳堂書店
朝陽堂書店
根津書局
文榮堂書店
南江堂支店
半田屋書店
文光堂書店
明文館書店
明誠堂書店
克誠堂書店
東京堂書店
朝香屋書店
丸善書局
林善平次郎
至誠堂
北隆館書店
東海堂書店
明文館支店

大板市博勞町
同 心齋橋筋一丁目
同 中之島玉江町
同 江戸堀南三丁目
京都市寺町
同 同 同
同 三條
同 丸太町
名古屋市中區榮町
同 中區老松町
同 中區三藏町
仙臺市古町
同 中區三藏町
新澤市古町
金澤市坂通町
同 同 同 同
福岡市博多上四町
同 同 同
岡山市中山下町
長崎市引地町
熊本市新二丁目
同 洗馬町
千葉縣千代田
同 同 同
鹿兒島市仲町

丸善支社
松村文海堂
角木屋書店
荒木堂
南江堂支店
若林茂支店
丸善支店
國井善支店
大丸竹善支店
三輪竹善支店
丸善支店
萬都宮支店
宇都宮支店
内田支店
丸善支店
渡邊支店
文善支店
集善支店
長崎支店
芥川支店
明田支店
松田支店
寶文支店
谷村支店

NAMENREGISTER

A	Buhl 179, 182	Eliott 230, 251
Agahd 344	Burgerstein 209, 214, 224, 352, 452, 552	Elsaesser 196
Albert 184	C	Erasmus 400
Arnold 65	Calmett 492	Erismann 18, 59, 61, 71, 73
Auguste 244	Chetwood 473	Erkrentz 120
B	Chlopin 365, 370	Erlandsen 492
Bach 194, 196	Cohn 44, 49, 56, 57, 59, 61, 73, 134, 183, 189, 194, 195, 197, 312, 314, 541	Esmarch 144
Bacon 400	Combe 555	Eulenberg 194, 196, 285, 296, 304, 370
Badalini 320	Comenius 400	F
Baelz 279	Curtis 230, 235	Fahrner 162, 174, 195, 198
Baron 182	D	Falk 27, 177
Bartle 473	D'Arsonval 117	Flügge 119, 263
Baudin 208	Dankwarth 124	Förster 244
Baur 336	Demberger 346	Frederic Bass 127
Becher 80	Dettweiler 220	Frey 172, 196, 199
Beetz 249	Dörr 432	Friedrich 303
Bendix 403	Dufestel 215	Froebel 400
Berger 551	Dürr 218	Fröster 18, 46
Beyer 185	E	G
Binet 352	Edmondson 473	Gerstenberg 248
Bion 375	Egloff 77	Gillert 118
Eock 165	Eichstadt 424	Goldscheider 491
Bonoff 352		Gossler 229, 344
Breiting 118, 129		Grassmann 346
Brodlum 52, 402, 415		
Brown-Sequard 117		
Buchner 179, 180, 197		

Graupner 272, 314	Jasper 88	Lobsien 117, 373
Green 413	Jessen 470	Locke 400
Griesbach 271, 432	K	Löffel 179, 182
Grimm 316	Kaiser 186	Löffler 492
Grollmus 326	Kalle 244	Lorenz 218, 269
Gross 65	Kallmann 218	Ludwig 34
Grotjahn 467	Kamp 244	Lumme 52
Gruber 18	Keller 300, 332	M
Guillaume 172, 553	Kerr 127, 140	Mainini 506
Gustettner 219	Kerschensteiner, 31, 32	Marsch 182
H	Kertzsch 551	Mayer 555, 558
Hansen 204	Key 284, 344, 347, 364, 365, 553, 607	Mennig 89
Harn 432	Klöser 579	Meyer 112, 195, 198, 553
Hartmann 432	Kober 489	Meyrich 112
Heise 265	Koch 492	Mikkelson 329
Hellpach 304	Köln. 165	Monahan 147
Helwig 117	Kosinzoff 352	Montaigne 400
Herberich 432	Kraepelin 298	Moritz 49
Hermann 194	Krönig 491	Morris 59
Hernheiser 542	Krug 553	Moro 492
Hertel 277, 283	Kuhn 218	Mosso 270
Herzberg 63	Kunze 184, 196, 199	Müller 218, 558
Hesse 118	L	N
Hintraeger 31	Lang 165	Nägeli 506
Hintzmann 304	Lange-Nische 492	Nenninger 264
Hippauf 185	Leland 232	Neufert 403
His 33	Lentz 369	Nussbaum 64, 121, 144
Höbler 138	Lessenich 272	O
Holscher 199	Leubuscher 344, 365, 436	Ocker-Blom 76, 264, 332, 429
Hullsner 34	Lickroth 185	Oebecke 485
I	Liebreich 196	Oppenheimer 495
Ignatieff 352	Linder 582	P
Iwliw 352	Lindholm 285, 286	Palmberg 286
J	Linsmeyer 179, 182	
Jacobitz 159		

Pappenheim 166	Rosenfeld 272	Thorner 55
Parow 183	Rothfeld 264, 335	Tjaden 284
Patzak 347	Rousseau 400	Todt 135
Paul 120, 264	Roux 207	Trélat 61
Pestalozzi 440, 411	Rubner 79, 118	U
Peter 553	S	Uhlenhuth 492
Pettenkofer 116	Scheff 582	Uhlig 30
Piasecki 207	Schiller 432	V
Piniot 494	Schlaby 81	Vandenesch 186, 194
Pirquet 224, 490, 492, 505	Schmidt 118, 124, 272, 489, 505	Varrenstraps 179, 182, 197
Pleier 50, 69, 159	Schmidt - Monnard 273, 277, 308, 330, 365	Vogdt 188, 189
Poelkou 485	Schneider 174	W
Port 582	Schöberle 229	Waetzold 347
Porter 272	Scholder 558	Weber 47
Posseks 73	Schotten 432	Weichardt 268, 271
Pratsek 189	Schulthess 189, 199, 555	Weiss 550, 555
Prausnitz 73, 77	Schuyten 271, 372	Wetekamp 323
Pröbsting 73, 76	Schubert 314, 321, 323, 436	William Murdoch 80
Q	Schulder 555	Wingen 54
Quirsfeld 272	Selter 62, 264	Wolpert 119
R	Sickinger 274	Z
Reclam 18	Sieveling 219	Zirngast 373
Reddie 397	Snyder 226	Zollinger 207
Reibmayr 76	Solem 495	Zwez 31, 32, 164, 166, 199
Renk 89	Spengler 492	
Rettig 178, 207	Staffel 199	
Reusz 542	Steinhaus 308	
Rey 304	Stern 122	
Rietschel 118	Storey 423	
Rietz 272	Stumpf 249	
Ritter 471	T	
Robson 29	Teljatnik 332	
Roller 347		
Röse 579, 582		
Rose 418		

276

244

276
244

終